

松 山 大 学 論 集
第 35 卷 第 5 号 抜 刷
2 0 2 3 年 12 月 発 行

病名の由来に関する考察
—— 薬学部学生の病気への向き合い方 ——

河 瀬 雅 美
河 瀬 絢 子
西 條 亮 介

研究ノート

病名の由来に関する考察

—— 薬学部学生の病気への向き合い方 ——

河	瀬	雅	美 ^{*)}
河	瀬	絢	子 ^{**)}
西	條	亮	介 ^{***)}

序 論

病気とは不健康な状態のことをいい、その原因や症状などの特徴によってさまざまな病名が付けられる。病名は、最初に症状名が付けられて、症状や原因が同一と推定されると単一疾患として認知され名づけられる。複数の症状のまとまりが観察された時には「〇〇症候群」と付けられ、研究が進むにつれて「〇〇病」という単一疾患として認知される場合もある。一方、同一の状態が単一疾患から症候群になる場合もある。例えば、バンチ病 Banti disease は、脾腫、貧血、腹水、肝硬変などの症状が合併した原因不明な疾患であるがその独立性に疑問が生まれた為このような症状を呈するものをバンチ症候群 Banti syndrome と改名された。わが国の厚生労働省が疾病、傷害および死因の基準とする世界保健機関 WHO が作成する国際疾病分類 ICD でも症状、疾患、症候群が混在していることから、病気と症候群の使いわけには定まったルール

*) 松山大学名誉教授

***) 武藤彩研究所代表

****) 松山大学薬学部准教授

はないようである¹⁾

また、病名・疾患名は一括管理する統制機関は存在しないため、病的状態の名称にはいくつもの名前が付いたり、物議を醸す名称が付くこともある。そのため、WHOは新しい感染症に病名を付ける際には国や地域に対する差別、経済活動への風評被害あるいは動物虐待を避けるため、地名や動物の名称を使用しないように声明を出している²⁾。実際、スペインかぜ Spanish flu、日本脳炎 Japanese encephalitis、サル痘 monkeypox など地名や動物の名称が付いた感染症ではその病名により風評被害や動物の虐待が起きている。なお、サル痘についてはエムボックス mpox に変更することを WHO が推奨し、これを受け日本でもカタカナ表記でエムボックスに変更された³⁾

WHOは人の健康を基本的人権の一つと捉え、その達成を目的として設立された国際連合の専門機関であることからヒト以外の生物（ウイルス、植物など）の名称を決定する権限はない。したがって、新型コロナウイルス感染症の病因ウイルスの名前である SARS-CoV-2 は国際ウイルス分類（命名）委員会 International Committee on Taxonomy of Viruses : ICTV によって命名されたが、その病名である COVID-19 は WHO が命名している⁴⁾

現在 AIDS（エイズ、後天性免疫不全症候群）として知られる病気は、最初 GRID（グリッド、ゲイ関連免疫不全）と呼ばれていた。その後、4H と名づけられたが Haitians ハイチ人、Homosexuals 同性愛者、Hemophiliacs 血友病患者、Heroin ヘロイン使用者の4グループが罹患しやすいとされていた頭文字 H を採った名称であったことからすぐに改名されている⁵⁾

日本において改名され定着した病名としては、統合失調症（改名前、精神分裂病）、認知症（改名前、痴呆症）がよく知られている。

現在、適応障害 adjustment disorder、注意欠陥多動性障害 attention-deficit/hyperactivity disorder : ADHD、外傷後ストレス障害 posttraumatic stress disorder : PTSD といった病名がそれぞれ適応反応症、注意欠如・多動症、心的外傷後ストレス症への変更が検討されている。これは、英語名の disorder の訳語として

「障害」が用いられていることが要因である。この「障害」は disability（無能、無力）の意味として「身体的もしくは精神的に欠陥があるゆえに行うことが不可能である状態」と理解されており精神疾患の実情と合わないことによる。精神疾患の中には可逆性のもも多くあり、精神疾患が障害であるようなステイグマをなくすためにも「～障害」を「～症」と置き換えることが提案されている⁶⁾。

また、糖尿病 diabetes mellitus においても 2022 年 11 月に新しい病名を検討することが発表されている。この病名に抵抗感を抱いている患者が 9 割いることが日本糖尿病学会の調査で明らかになったことがきっかけとなった。その理由として病名に排泄物を指す尿の字が入っており、不潔感や羞恥心を覚える人が多い。また、患者のなかには子どもも多くおり学校でからかわれやすいという問題もあった。一方、甘い物の食べ過ぎといった偏ったイメージがつきまとうことも患者を苦しめる原因として挙げられる。糖尿病は膵臓から分泌されるインスリンがうまく働かず、体内でブドウ糖を有効に活用できなくなる病気で、必ずしも尿から糖が出るわけではないことから、病名が医学的に病気の実態に合っているとは言い難い。糖尿病は国内で 1,000 万人が患う病気である。このような背景からも、改名の検討が病気への理解を深めるきっかけとなり、病名変更が病と向き合う人を支え、共に生きる社会を実現する一助になることが期待されている⁷⁾。2023 年 9 月 22 日、日本糖尿病学会と日本糖尿病協会は、糖尿病の新しい呼称として「ダイアベティス」を提案した。今回、提案されたのは病名ではなく、あくまでも呼称であり、今後 1～2 年の時間をかけ、呼称変更の必要性を含めて社会的に議論していくという。

本論文では、病名や症候群などの名称やその英語名の由来について纏めたが、本論文の目的は全ての病名や症候群を網羅することではない。薬剤師は患者の診断に直接携ることはないが、病名の由来を知ることで医療人として患者の視点に立ち病気を治したいという気持ちの大切さを考える機会となれば幸甚である。なお、病名や症候群などの名称やその英語名の由来を学習した後、病気の

原因, 症状, 治療などを学ぶことにより, 病気の理解がより深まることや患者への共感, 思いやりがより豊かに養われることを学生たちに十分に知ってもらうことが目的である。このような背景を踏まえ, 薬学部生には病名の由来に関しても是非とも学んでおいてもらいたい。

材 料 ・ 方 法

種々の資料⁸⁻¹⁵⁾を参考にして今回の論文をまとめた。【あ】～【ろ】で始まる病名・症候群では, 各々幾つかの病名・症候群を選んだ。

以下, 病名・症候群を五十音順に並べた。なお, 病名・症候群の名称の由来については, 【人名】人名が病名のもととなったもの, 【症状】症状が病名のもととなったもの, 【部位】臓器などの病巣部位が病名のもととなったもの, 【原因】病気の原因が病名のもととなったもの, 【感染菌】ウイルス名が病名のもととなったもの, 【カナ】英名のカタカナ読みが病名になったもの, 【地名】地名が病名になったもの, 【その他】その他, を病名・症候群の名称の後に挿入した。

病気の英語名に関する語源の記述は, 語源的記述というよりはむしろ語義の理解の助けとなるような語源的情報を提供する目的で, できるだけ日本語の記述で [] 中に表記した。病気の英語名に関しては, 英語のみならずギリシャ語やラテン語が語源になっている。したがって, 英語の病名は接頭辞や語根, 連結母音, 接尾辞の全てもしくはその幾つかから合成されているものが多い¹⁶⁾。例えば, arrhythmia (不整脈) は, ar (否定を表す接頭辞) + rhythm (リズム, 脈) + ia (病的状態を表す接尾辞)。また, arteriosclerosis (動脈硬化症) は, arteri (動脈) + o (連結母音) + scler (硬化) + osis (～症) の構成要素になっている。また, 各病名・症候群に関連する病名などがある場合→の後に記載した。

病名・症候群：収録【あ】～【ろ】

以下に本収録の病名・症候群の英語名に頻出する英単語6個と接尾辞4個の

意味をまとめた。

disease : dis (離れて) + ease (安らぎ) に由来し, 安らぎから離れるものと解釈でき, 「病氣」を意味する。

disorder : dis (否定) + order (秩序) に由来し, 「障害」を意味する。

fever : ラテン語の febris (発熱) が語源で, 「熱」を意味する。

infection : in (中へ) + fect (つくる) + ion (こと, もの) に由来し, 体の中に悪いものをつくることと解釈でき, 「感染」を意味する。

syndrome : syn (一緒) + dromos (進路) に由来し, ラテン語の syndromos (道路の合流地点) が語源で, 「症候群」を意味する。

virus : ラテン語の virus (毒液, 粘液) に由来し, 「ウイルス」を意味する。

-ia (～症, 病) : 病的状態を表す接尾辞。leukemia 白血病, anemia 貧血

-iasis (病態を意味する接尾辞) : amebiasis アメーバ赤痢, psoriasis 乾癬

-itis (炎症) : 炎を意味し, 臓器などにおける炎症を表す接尾辞。hepatitis 肝炎, nephritis 腎炎

-osis (病態を意味する接尾辞) : liver cirrhosis 肝硬変, tuberculosis 結核

【あ】

アイフレイル Eye frailty 【症状】 [frailty : fragilis (壊れやすい) に由来 : フレイルは, 海外の老年医学分野で使用されている frailty (虚弱, 老衰, 脆弱) が語源。] アイフレイルというのは目のフレイルという意味で, 2021年に日本眼科啓発会議から提唱された。アイフレイルは他の身体のフレイル (転倒し骨折しやすい, 認知症が悪化するなど) を進行させる原因にもなる。

原因 : 加齢に伴って眼の脆弱性が増加した状態に, 様々な外的要因が加わること。

症状 : 視機能の低下。

アスペルガー症候群 Asperger syndrome 【人名】 オーストリアの小児科医ハン

ス・アスペルガー Hans Asperger にちなんで付けられた。1944年にアスペルガーは「小児期の自閉的精神病質」という題で4例の子どもについての論文を発表した。その前年にアメリカの精神科医レオ・カナー Leo Kanner が早期乳幼児自閉症に関する論文を発表しており、カナーの論文がその後、長く英語圏で影響を持つようになったため、アスペルガーの論文は顧みられることが少なかった。しかし、1981年、イギリスの児童精神科医ローナ・ウイング Lorna Wing がアスペルガーの業績を再評価したことがきっかけとなり、広く知られるようになった。ウイングは多数例から自閉症とは診断されなくても、社会性、コミュニケーション、想像力の3つの面で同時に障害をもつ子どもたちがいることに気づいた。これらの障害を持ちながら自閉症と診断されない子どもたちが、アスペルガーの報告した症例に似ていることからアスペルガー症候群の診断名が適切であると考えられるようになった。なお、ICD-11では、本診名はなく自閉症スペクトラム症（障害）の中に位置づけられる。

→自閉症スペクトラム症

アテトーゼ Athetosis 【カナ】 [ギリシャ語の *athetos* (not fixed) が語源。a- (無いという意味の接頭辞) + *dhe-* (設置し、置く) + *-osis* (病態を意味する) に由来。] 1871年にアメリカの神経専門医ウィリアム・アレクサンダー・ハモンド William A. Hammond が舞踏運動 *chorea* (体が自分の意思がないのに動いてしまう不随意運動のひとつ) とは異なる概念として、*without fixed position* (安定した姿勢を保つことができない) という意味で不随意運動を *athetosis* (アテトーゼ) と命名した¹⁷⁾ なお、舞踏運動を症状とするハンチントン病がある。

原因：脳性麻痺。

症状：手足や舌などが不随意に律動的な痙攣をする。

→ハンチントン病

アトピー性皮膚炎 Atopic dermatitis 【症状】 [atopic (特定されていない) : ギリシャ語の atopos : a (否定) + topos (由来)。dermatitis (皮膚炎) : derma (皮膚) + itis (炎症)] 1923年に二人のアメリカの医師アーサー・フェルナンデス・コカ Arthur Fernandes Coca とロバート・アンダーソン・クック Robert Anderson Cook が異常な過敏反応(喘息, 鼻炎, 湿疹などの症状)をアトピーと呼んだ。その後1933年, アメリカの皮膚科医マリオン・ザルツバーガー Marion Sulzberger らが皮膚炎と結びつけてアトピー性皮膚炎という病名を付けた。

原因: 異物が体内に入り込むことを防ぐための皮膚のバリア機能が弱いことで起こる。

症状: かゆみを伴い, 赤くて, プツプツ, カサカサした皮膚症状(湿疹)を繰り返す。アレルギー反応を起こしやすい体質の人ほど, 症状は重くなる。

アメーバ赤痢 Amebiasis 【感染菌(虫)】 [ameba (アメーバ, ギリシャ語で「変化」を意味する) + iasis (病態を意味する)] 1903年にドイツの微生物学者フリッツ・シャウディン Fritz Schaudinn がアメーバ赤痢を引き起こす赤痢アメーバ *Entamoeba histolytica* を種として報告した。赤痢アメーバを病原体とする大腸炎のうち, 粘血便をはじめとし, 下痢, テネスマス(しぶり腹), 腹痛などの赤痢症状を示すものをアメーバ赤痢と呼ぶ。しかし, 1999年から消化器症状を主症状とするものばかりでなく, それ以外の臓器に病変を形成したものも含めてアメーバ赤痢と定義された。なお, 細菌性赤痢とは異なる病気。

原因: 赤痢アメーバ *Entamoeba histolytica* の感染による。

症状: 症状が現れるのは10~20%。発症した場合はイチゴゼリー様粘血便(血液が混ざった便), 下痢, しぶり腹など。

→細菌性赤痢

アルツハイマー病 Alzheimer's disease 【人名】アルツハイマー病の名は、最初の症例報告を行ったドイツの精神科医アロイス・アルツハイマー Alois Alzheimer に由来している。

原因：アミロイドとタウの2つのタンパク質が脳内にたまることで、神経細胞の障害と減少による。根本的な原因は不明。

症状：記憶に関わる脳の海馬の萎縮が始まり、もの忘れが徐々に進行する。

→認知症、レビー小体型認知症

アレルギー疾患 Allergic disease [アレルギーという言葉はドイツ語の *allergie* に由来する。この *allergie* の語源はギリシャ語の *allos* (変わった, 奇妙なを意味する) と *ergon* (作用, 反応を意味する) の造語。] 1906年, オーストリアの小児科医クレメンス・フライハー・フォン・ピルケ Clemens Peter von Pirquet がアレルギーの命名を行った。次の6疾患：アトピー性皮膚炎, アレルギー性鼻炎, 花粉症, 気管支ぜん息, 食物アレルギー, アレルギー性結膜炎がアレルギー疾患対策基本法に定められている。なお, アレルギー疾患対策基本法は, 日本国民の約二人に一人がアレルギー疾患に罹患していることを踏まえ, 総合的なアレルギー疾患対策を推進するために2014年に作られた法律。

→アトピー性皮膚炎, 花粉症

【い】

インフルエンザ Influenza 【感染菌】[イタリア語の *influence* (影響) に由来。] 16世紀のイタリアの占星家たちが, 星や寒気の影響 (*influence*) によりこの感染症の流行が周期的に現れてくると考えたことがインフルエンザの語源になっている。

原因：インフルエンザウイルス *influenza virus* の感染による。

症状：悪寒, 急激な高熱, 咳, 鼻水など。

【う】

ウエストナイル熱 West Nile fever 【地名】1937年に患者が初めて発見されたウガンダのウエストナイル West Nile 地域の名前に由来する。

原因：蚊によって伝播するウエストナイルウイルス（西ナイルウイルス）
West Nile virus による感染。

症状：発熱，頭痛，咽頭痛，関節痛など。

ウェルニッケ脳症 Wernicke's encephalopathy 【人名】[encephalo はギリシャ語の enkephalos（頭の中）に由来し，脳を意味する。] ドイツの神経科学者，外科医カール・ウェルニッケ Carl Wernicke にちなんで名付けられた。

原因：ビタミン B₁（チアミン）の欠乏。

症状：意識障害，失調性歩行，眼球運動障害。

うつ病 Clinical depression 【症状】[depression（押し下げられて心が沈むこと）は de（下へ）+ press（押す）+ ion（こと，もの）に由来。] 精神疾患の一つで，気分障害という分類に含まれる。元自民党総務会長の笹川堯氏は，自民党大分県連の大会で講演中，教育問題にふれ「学校には，うつ病で休んでいる先生がいっぱいいる。国会議員には1人もいない。気が弱かったら務まらない。」と発言。この発言は，うつ病で苦しむ人に対し配慮を欠くうえ，病気自体への誤解を与える暴言として社会問題となった。

原因：病気，失業，離婚などの生活や環境の変化や強いストレスにより，脳内でセロトニンやノルアドレナリンなどの神経伝達物質の伝達がスムーズに行われないことによる。

症状：気分が落ち込み，意欲が低下し仕事，家事，勉強などの日常生活に障害が生じる。さらに生きていても仕方がないと，自殺念慮を持つこともある。

【 え 】

ADHD (Attention-deficit/hyperactivity disorder)

→注意欠如・多動症

エイズ Acquired immunodeficiency syndrome: AIDS 【カナ】 [acquired (獲得した, 後天的な) は ad (方向) + quaerere (求める) に由来。immunodeficiency (免疫不全): immuno (免疫力) は im (否定) + mun (変わる) に由来し, 「外的要因で変わらない力があるような」と解釈でき, 「免疫の」を意味する。+ deficiency (欠乏): de (下へ) + fic (する) + cy (こと, もの) に由来し, 「下回ること」と解釈でき, 「欠乏, 不足」を意味する。] AIDS エイズは, **acquired immunodeficiency syndrome** の各語の先頭の文字をつづり合わせた頭字語である。日本語では, 後天性免疫不全症候群と言う。原因菌の HIV はウイルス名で, **human immunodeficiency virus** (ヒト免疫不全ウイルス) の頭字語。原因: ヒト免疫不全ウイルス *human immunodeficiency virus* HIV の感染による。

症状: 免疫の機能が著しく低下し, 重症な感染症やがんを併発。

→ヒト免疫不全ウイルス病

エボラウイルス病 Ebola virus disease 【感染菌】 [Ebola は川の名称] 1976年8月, 当時のザイール (コンゴ民主共和国) のエボラ川 Ebola river 沿岸のヤンブク Yambuku で, 1976年6月, スーダン南西部 (南スーダン) の西エクアトリア州にある町ヌザラ Nzara で流行したのと同じ出血熱のアウトブレイクが発生したことから, 原因菌をエボラ川の名称からとりエボラウイルス *Ebola virus* と名づけられた。そして, その病気もエボラ出血熱 Ebola hemorrhagic fever と名づけた。感染者が必ずしも出血症状を呈するわけではないため, 国際的な呼称はエボラ出血熱からエボラウイルス病へ切り替わりつつある。なお, エボラ出血熱はマールブルグ病, ラッサ熱, 南米出血熱,

クリミア・コンゴ出血熱と並ぶ、ウイルス性出血熱の一つ。

原因：フィロウイルス科エボラウイルス属のウイルスの感染による。

症状：発熱，倦怠感，脱力感，頭痛など。その後，全身の発疹，下痢，嘔吐が現れ，脱水状態に陥ることもある。重症化すると，血小板などが減少し，吐血，下血，意識障害が現れる。

エムポックス mpox

→サル痘

【お】

黄熱病 Yellow fever 【症状】 名称は患者の一部で黄疸の症状がでること由来する。

原因：ネッタイシマカ *Aedes aegypti* などの蚊によって媒介され，フラビウイルス科フラビウイルス属に属する黄熱ウイルス *Yellow fever virus* の感染による。

症状：潜伏期間は3 - 6日で，発熱，頭痛，背部痛，虚脱，悪心など。

オズウイルス感染症 *Oz virus infection* 【感染菌】 オズウイルス *Oz virus* は，オルソミクソウイルス科 Family Orthomyxoviridae トゴトウイルス属 Genus *Thogotovirus* に分類される RNA ウイルスで，2018年に日本でタカサゴキラマダニ *Amblyomma testudinarium* より分離同定され，オズウイルスと命名された¹⁸⁾ これまでヒトにおける感染の可能性が示唆されていたものの，世界的にヒトでの発症や死亡事例は確認されていなかったが，2023年6月，ヒト感染症例（致死症例）が日本で初めて報告された。

原因：オズウイルス OZV の感染による。

症状：OZV 感染による症例報告は1例のみであり，臨床症状を特徴づけることはできない。当該症例は，倦怠感，食欲低下，嘔吐，関節痛，39℃

の発熱を主訴とし、心筋炎で死亡。

おたふく風邪 Mumps 【症状】〔耳下腺炎を起こした患者が口痛ではさぼさ話したことから、「ぼそぼそ言う」という意味を持つ mump に由来。〕 流行性耳下腺炎 mumps と呼ぶ。しかし、日本では耳下腺に炎症が生じ、はれた顔がお多福に似ているのでおたふく風邪と呼ばれている。

原因：ムンプスウイルス *mumps virus* に飛沫感染や接触感染することで引き起こされる。

症状：耳下腺・顎下腺の腫れ、頭痛、食欲の低下、倦怠感など。

オンコセルカ症 Onchocerciasis 【感染菌(虫)】〔onchocerca (オンコセルカ) + iasis (病態を意味する)〕 オンコセルカ (回旋糸状虫) *Onchocerca volvulus* という寄生虫によって引き起こされる。オンコセルカ症は、急流の河川において繁殖するブユ (*Simulium* 属) を介して伝播するので、河川盲目症という別称がある。

原因：回旋糸状虫を病原体にし、感染したシムリウム属のブユに繰り返し咬まれることで伝染。

症状：激しい皮膚の痒み、発疹、失明など。

【 か 】

かぜ症候群 Common cold or Cold syndrome 【その他】 かぜは正式にはかぜ症候群という。一般的にくしゃみ、鼻水、鼻づまり、のどの痛み、咳、たん、発熱などの症状の総称を指す。風邪(かぜ)は、昔は風が原因でなる病気と考えられていたことからの名称。また、鎌倉時代の僧侶が、かぜの症状を引き起こす邪悪な風のことを風邪(ふうじゃ)と呼んでいたことが由来であるとも言われている。現在の「かぜを引く」という表現は「邪気を引き入れる」からきている。主な原因はウイルス感染であるため、基本的に特效薬はない。

治療は症状を緩和する対症療法を行う。

原因：80%～90%以上がウイルス感染。

症状：鼻水，喉の痛み，発熱，倦怠感，咳，痰など。

花粉症 Hay fever または Pollen allergy 【その他】 [hay fever : hay (干し草) + fever (熱)。pollen allergy : pollen (花粉) + allergy (ギリシャ語の allos (変わった) + ergo (作用, 反応)] Hay fever の由来は昔，イギリスで干し草 hay の作業をしている人たちに花粉症のようなアレルギー症状が出たことによる。医学用語では，季節性アレルギー性鼻炎 seasonal allergic rhinitis という。rhinitis (鼻の炎症，特に粘膜の炎症) はラテン語の rhino (鼻) + itis (炎症) に由来。日本では花粉の飛散シーズンには3人に1人がかかる国民病。

原因：スギやヒノキなどの植物の花粉。

症状：鼻の症状からなるアレルギー性鼻炎や目の症状からなるアレルギー性結膜炎。

→アレルギー疾患

川崎病 Kawasaki disease 【人名】1960年代にこの病気を発見した，日本の小児科医 川崎富作にちなんで名付けられた。主に乳幼児がかかる発熱性疾患。

原因：不明。

症状：突然の高熱が数日続き，目や唇の充血，手足の発赤，首リンパ節の腫脹。

がん Cancer 【症状】 [ギリシャ語の karkinos (蟹) に由来。] 英語では cancer または carcinoma，ドイツ語では krebs (クレープス) と言うが，どちらもカニの意味。これは，乳がんではちょうどカニが手足を広げたような固いしこりを表面から触れるようになることを表現したものとされている。また，中国では「癌」以外に「岩」などと記した例もあり，岩のようにかたいしこりが

できる病気という意味を表している。日本では漢字で「癌」と書くことも、ひらがなで「がん」あるいはカタカナで「ガン」と書くこともある。上皮細胞（皮膚や粘膜などの上皮組織を形成する細胞）由来の悪性腫瘍の場合は癌という漢字を使って表す。例として、皮膚癌 skin cancer, 乳癌 breast cancer, 食道癌 esophageal cancer, 肺癌 lung cancer, 胃癌 stomach cancer または gastric cancer, 肝臓癌 liver cancer, 膵臓癌 pancreatic cancer, 膀胱癌 bladder cancer, 大腸癌 colorectal cancer, 子宮癌 uterine cancer など。一方、骨や筋肉などがガン化したものは、肉腫 sarcoma と呼ぶ。例としては、骨肉腫 osteosarcoma or bone cancer, 平滑筋肉腫 leiomyosarcoma など。血液細胞がガン化したものとして、悪性リンパ腫 malignant lymphoma や白血病 leukemia などがある。上皮細胞由来ではない悪性腫瘍悪性のこと、あるいは、すべての悪性腫瘍を総称するときに、がんというひらがなを使用する。したがって、全国にあるがんセンターのがんはひらがなである。

→悪性リンパ腫, 白血病

肝炎 Hepatitis 【部位】 [hepar (肝臓) + itis (炎症) に由来。] 肝炎ウイルス *hepatitis virus* には A～E 型があり、主に A 型と E 型は肉や魚介類、汚染された水などを介して感染し、急性肝炎を引き起こす。一方、B 型と C 型は血液や体液を介して感染し、慢性肝炎になりやすい。D 型は、B 型肝炎ウイルスが存在しなければ感染は起こらない。

原因：ウイルスの感染による。肝臓に脂肪が蓄積され、脂肪肝の状態になり炎症を起こすことによる。

症状：急性肝炎の場合、急激に炎症が生じて肝臓の機能が低下し、倦怠感、吐き気、発熱、黄疸など。一方、慢性肝炎の場合は症状が現れにくい。

肝硬変 Liver cirrhosis 【症状】 [cirrhosis はギリシャ語の黄色を意味する kirrhos が語源の cirrh に由来。] 肝臓全体が線維化により萎縮し小さくなり岩のよ

うに硬くなることから名付けられた。

原因：肝臓の炎症が長期にわたって続き、肝細胞の破壊と肝臓の繊維化が起こることによる。

症状：初期は自覚症状がほとんどない。かなり進行した段階で、黄疸、腹部膨満が現れる。

→肝臓病

肝臓病 Liver disease or Hepatic disease 【部位】 主なものとして、肝炎、肝硬変、肝臓癌がある。2023年6月に日本肝臓学会は、肝機能を調べるALT (GPT) 値が30を超えた場合はかかりつけ医への受診を促す指標を定めている。その理由は新型コロナウイルス禍でアルコール性肝障害や脂肪肝が増加傾向にあり、早期発見や治療につなげるためである。

原因：ウイルス感染、アルコールの過剰摂取や肥満などの生活習慣。

症状：初期は自覚症状が乏しい。代表的な症状の一つに全身のかゆみがある。

→肝炎、肝硬変

肝疾患 Liver disease or Hepatopathy 【部位】 肝臓病のこと。

→肝臓病

関節リウマチ Rheumatoid arthritis 【症状】 [rheumatoid は古代ギリシャ語のロイマ rheuma (流れる) が語源。Arthritis は古代ギリシャ語の arthron (関節, 手足) + itis (炎症) に由来。] 1962年、rheumatoid arthritis の日本語訳が慢性関節リウマチになったが、rheumatoid arthritis という英語名には「慢性」にあたる語は一切含まれておらず、これは誤訳であるとする意見が多かったため、第46回日本リウマチ学会総会 (2002年) において正式名称を関節リウマチに改訂された。これに伴い2006年4月から、厚生労働省による特定疾患の名称も関節リウマチに変更された。

原因：不明。

症状：全身の関節の腫脹（炎症などが原因で身体の組織の一部がはがれること）、疼痛，朝起きたときの関節のこわばり。

乾癬 Psoriasis 【症状】[ギリシャ語の psen (こする) → psora (痒み・疥癬) → psorian (痒い) に由来。] 明治初期 (1878) の「対症辨明」という本では psoriasis に布曾里亜失 (ぷそりあしす) という漢字を使っていた。大正時代の土肥慶蔵著「皮膚科学」には尋常性鱗屑疹の記載に加え、乾癬も並記されていた。癬とは、たむし、ひぜん、かゆみを伴う皮膚病の一種などの意味をもつ漢字。欧米人に多い疾患とされ、世界に一億人の患者がいると言われる¹⁹⁾

原因：不明。

症状：皮膚から少し盛り上がった赤い発疹の上に、銀白色のフケのようなもの（鱗屑）がくっついてポロポロとはがれ落ちる。

カンピロバクター感染症 *Campylobacter infection* 【感染菌】[*campylobacter* はギリシャ語の *campylo* (曲がった) + ラテン語の *bacter* (細菌) に由来。] 原因菌であるカンピロバクター *Campylobacter* の学名は *campylo* (曲がった) と *bacter* (細菌) を合成したもので、曲がった細菌という意味を持つ。カンピロバクターは鶏などの家禽類や牛の腸内に生息しているので、加熱が不十分な肉を食す（特に鶏肉）、低温殺菌をされていない牛乳を飲む、汚染された井戸水を飲む、カンピロバクターで汚染された肉を扱った包丁やまな板で他の食材も扱ったなどが主な原因として挙げられる。

原因：カンピロバクター属の細菌（通常はカンピロバクター・ジェジュニ *Campylobacter jejuni*）の感染による。

症状：吐き気，嘔吐，下痢，腹痛。

【 き 】

狭心症 Angina pectoris 【症状】 [angina (胸痛) + pectoris (胸)] Angina pectoris の命名はイギリスの内科医ウィリアム・ヘバーデン William Heberden (1710-1801) とヘバーデン・ジュニア William Heberden the Younger (1767-1845) の親子による。日本での命名については、落合泰蔵著「漢洋病名対照録」(1884 (明治 17) 年) に angina pectoris (angina は激痛, pectoris は胸部) の訳語として、心胸神経痛が記載されている。しかし、狭心症は angina pectoris を訳したというよりも、イタリアのブレラが 1810 年に提唱した stenocardis [steno (狭い) + cordis (心臓) に由来。] を直訳したものと考えられている²⁰⁾ 原因：冠動脈に狭窄が生じることによって心筋に十分な酸素が行き渡らなくなることによる。
症状：胸の痛み、発作。

ギラン・バレー症候群 Guillain-Barré syndrome 【人名】 1916 年、二人のフランスの医師ジョルジュ・ギラン Georges Guillain とジャン・アレクサンドル・バレー Jean Alexandre Barré が、急性で单相性の運動麻痺を呈した 2 症例を髄液の蛋白細胞解離と脱髄を示唆する電気生理所見とともに報告したことにより、その名称が定着した。
原因：ウイルス (カンピロバクター, サイトメガロウイルス, EB ウイルス) や細菌による感染をきっかけに起こる免疫反応による末梢神経の障害。
症状：脱力、しびれなど。

起立性調節障害 Orthostatic dysregulation 【症状】 [orthostatic は ortho (まっすぐ) + st (立つ) + ic (のような) に由来。dysregulation (調節不全) は dys (否定) + reg (まっすぐな) + ation (すること, するもの) に由来。] 1958 年に日本の小児科医 大国真彦 Masahiko Okuni が、起立時にめまい、動悸、失神などが起きる自律神経の機能失調が学童・思春期に多くみられることを初めて報

告した²¹⁾

原因：自律神経のバランスの崩れ。

症状：体や頭が重く感じて起き上がれない、立ち眩み、倦怠感、食欲不振、頭痛など。

Q 熱 Query fever or コクシエラ症 Coxiellosis 【その他】1935年にオーストラリアの屠畜場で流行した原因不明の熱性疾患（Query fever=不明熱）として報告されたことに由来する。

原因：コクシエラ科コクシエラ属のコクシエラ・バーネティ *Coxiella burnetii* の感染による。

症状：高熱、頭痛、悪心、倦怠感など。

【 く 】

クロロキン網膜症 Chloroquine retinopathy 【原因】[retinopathy (網膜症)：retino (網膜)は中世ラテン語の retina (網膜)に由来。pathy (苦痛, 感情, 病気, 療法)はギリシャ語の pathēia (感情, 苦悩)に由来。] クロロキン網膜症には治療法がなく、クロロキンの服用を中止しても視覚障害が進行する。日本では、アメリカでの報告や警告があったにも関わらず、厚生省(当時)が情報公開や製薬会社に対する指導など適切な対応をとらなかったために被害(日本でのクロロキン網膜症患者は1,000人以上)が拡大した²²⁾

原因：クロロキンの長期投与による。

症状：眼底黄斑が障害され、網膜血管が細くなり視野狭窄。

クリミア・コンゴ出血熱 Crimean-Congo hemorrhagic fever 【地名】[hemorrhage (出血)は haima (血)+rhage (壊す)に由来。] 病名はクリミア地方とコンゴの患者から分離されたウイルスが同一であったことが確認されたことにより、二つの地名にちなんで名付けられた。アフリカ, 南東ヨーロッパ, 中東

の一部に見られるウイルス感染症。病原体のウイルス名であるクリミア・コンゴ出血熱ウイルス *Crimean - Congo hemorrhagic virus* の名前は、1944年のクリミアで臨床症例がみられたこと、さらに1956年にコンゴにおいて初めてウイルスが分離されたことに関連して名付けられている²³⁾

原因：クリミア・コンゴ出血熱ウイルスに感染したマダニに咬まれて感染。

症状：発熱，頭痛，筋肉痛など。重症化すると出血がみられる。

くる病 *Rachitis* 【症状】 [ギリシャ語の *rhakhis* (背骨) に由来。] 漢字では佝僂病くわうびょうと書き、佝僂はせむしの意味。骨を形成する過程で石灰化がうまくいかず、弱い骨が作られてしまう病気。子どもで骨端線（発育期の骨に存在する軟骨層）が閉鎖する前に生じる骨の石灰化障害をくる病と呼ぶが、成人（骨端線閉鎖後）になって生じた場合は骨軟化症 *osteomalacia* と呼ぶ。

原因：ビタミンD欠乏や何らかの代謝異常。

症状：脊椎や四肢骨の湾曲や変形。

グレーブス病 *Graves' disease*

→バセドウ病

クローン病 *Crohn's disease* 【人名】 1932年、アメリカの内科医ブリル・バーナード・クローン *Burrill Bernard Crohn* らによって限局性回腸炎として報告されたことによる。クローン病と大腸に原因不明の炎症が起きる潰瘍性大腸炎 *ulcerative colitis* の2つを合わせて、炎症性腸疾患 *inflammatory bowel disease* と呼ぶ。

原因：不明。

症状：長期にわたり、小腸や大腸などの消化管に炎症が起き、びらんや潰瘍などができる。

→潰瘍性大腸炎

【け】

けいれん Convulsions 【症状】 [convulsions (痙攣) はラテン語の convulsionem (けいれん, 痙攣) に由来。] けいれんは筋肉が急激に自分の意志とは関係なく収縮する発作のことをいい、全身または一部の筋肉に起こる。骨格筋に発作的にみられる急激な収縮 (てんかん性の痙攣) は救急治療の対象となり、多くは意識障害を伴う。その他、顔面の片側の筋や眼瞼がピクピクして痛みを伴わないスパズム spasm, 局所の筋痙攣で痛みを伴う (いわゆるこむら返り) クランプ cramp も痙攣に含まれる。なお、けいれんと同じ意味で使われるひきつけは子供のけいれんに使うことが多い。

原因：大脳の障害。

症状：筋肉が自分の意思とは無関係に収縮する発作を起こす。

結核 Tuberculosis 【感染菌】 [tuberculosis はラテン語の tuberculum とギリシャ語の osis の合成語。tuberculum は tuber (小さいしこり, 腫物) + culum (小さい) + osis (病態を意味する) に由来。] Tuberculosis は、1839年に結核の病理組織学的所見である tuber (結節) を認めることからドイツの病理学者ヨハン・ルーカス・シェーンライン Johann Lukas Schönlein がドイツ語で Tuberkulose と表現したことに由来する。結核の名称は、7世紀の中国で、瘰癧 (るいれき：頸リンパ節結核) によって頸部が連なって腫れた状態を「くだものの種 (核) が連なったような」と表現した肉眼的所見に由来するとされている。結核菌 *Mycobacterium tuberculosis* は1882年にロベルト・コッホによって発見された。日本では、明治初期まで肺結核は労咳と呼ばれていた。現在でも多くの人が罹患する病気で好発部位は肺であるが、全身の臓器、器官に感染し、顕著な症状を呈している部位名の前後に結核を付け加えるなどした呼び方により細分化される (肺結核, 肺外結核, カリエス)。

結核を予防するワクチン BCG の名称は、**Bacillus** (細菌) とこのワクチンを開発したフランスのパスツール研究所の二人の研究者の名前アルベール・カ

ルメット Albert Calmette とカミーユ・ゲラン Camille Guerin の二人の頭文字をとったもの。

原因：マイコバクテリウム属の細菌，主に結核菌の感染による。

症状：咳，痰，発熱，呼吸困難など。

結膜炎 Pink eye or Conjunctiva inflammation 【部位】 [conjunctiva (結膜) はまぶたの内側の粘膜という意味で，1540年代に医学ラテン語で使われ始め，membrana conjunctiva (結膜) の略語。inflammation (点火，炎症) : in (中へ) + flame (炎) + ation (すること，するもの) に由来。] Pink eye (ピンク色の目) は，「伝染性の目の感染症」を意味し，1882年にアメリカで生まれた。

原因：ウイルス感染によるもの (ウイルス性結膜炎)，細菌感染によるもの (細菌性結膜炎)，花粉やハウスダスト，動物の毛，コンタクトレンズの汚れなどのアレルゲンによるもの (アレルギー性結膜炎)。

症状：結膜の充血，目やに，目のかゆみ。

血友病 Hemophilia 【その他】 [hemo (血液を意味する接頭辞) + philia (好み，傾向)] 1803年に米国の医師ジョン・コンラッド・オットー John Conrad Otto は血友病が遺伝病であることを明らかにした。そして1828年にチューリッヒ大学 University of Zurich のフリードリッヒ・ホッフ Friedrich Hopff がこのような出血性疾患を血友病と呼んだ。著名な例として，イギリスのビクトリア女王 Queen Victoria (1819-1901年) が血友病のキャリアであったため，代々にわたって血友病があらわれ，19世紀の英国王朝を中心にヨーロッパに広がり，皇室病 The Royal Disease と称されていた。血友病は出血を止める血管，血小板，血液凝固因子の3要素のうち，血を固めるための血液凝固因子が生まれつき不足または欠乏している病気。

原因：12種類の血液凝固因子のうち第Ⅷまたは第Ⅸ因子が不足していたり，はたらきが悪かったりすることによる。

症状：関節や筋肉で内出血が起こる。進行すると変形や拘縮をきたす。

ケトン尿症 Ketonuria [keto- はケトン基の意味の接頭辞]

→フェニルケトン尿症

ゲーム障害 Gaming disorder 【原因】ゲーム依存症 Video game addiction ともいう。2018年6月に公表されたICD-11において記載され、2019年5月にはWHOがゲーム障害を国際疾病として正式に認定した。

原因：普段の生活が破綻するほどの、持続的かつ反復的なゲームへののめり込み。

症状：欠席、欠勤、ひきこもり、朝起きられない、昼夜逆転など。

【こ】

高コレステロール血症 Hypercholesterolemia 【症状】 [hyper (上, 超越, 向こう側) はギリシャ語のヒュペル ύπερ (hyper) が語源 + cholesterol (コレステロール) はギリシャ語の chole (胆汁) と sterol (個体) の複合語 + emia (血液の状態, 血症)] 血液中のコレステロール値が高い状態。高トリグリセリド血症 hypertriglyceridaemia や低HDLコレステロール血症 low high-density-lipoprotein cholesterolemia など共に脂質異常症に分類される疾患。

原因：遺伝的な要因と共に食事、運動不足、肥満、喫煙との組み合わせによる。

症状：症状はみられない。

→脂質異常症

高脂血症 Hyperlipidemia

→脂質異常症

膠原病 Connective tissue disease or Collagen disease 【その他】 [connective (結合の) : ラテン語の *conectere* (結合する) から派生。] 1942年、アメリカの病理学者ポール・クレンペラー Paul Klemperer が結合組織 (臓器や組織をつなぐ構成成分) や血管など、膠原繊維を含む組織に特有の病理学的変化 (フィブリノイド変性) を起こす疾患群を膠原病と名付けた。現在でも、病気の原因は完全には明らかになっていない。全身の複数の臓器に炎症が起こり、臓器の機能障害をもたらす一連の疾患群の総称。膠原病の膠 (にかわ) の文字は獣や魚の皮・骨などを水で煮沸し、その溶液からコラーゲン collagen などを抽出し、濃縮、冷却し凝固させたものを意味している。

原因 : 皮膚, 骨, 血管, 内臓などを形成するタンパク質の一種であるコラーゲンに炎症や変化が生じることによる。

症状 : 病気の種類によって皮膚, 筋肉, 各臓器などに特徴的な症状が現れる。

多関節痛と発熱が共通して見られる。

後天性免疫不全症候群 Acquired immunodeficiency syndrome

→エイズ

五月病 May blues 【その他】 [May (5月) + blues (青・憂鬱)] 5月の連休明けに学校に行けない, 行っても楽しめない症状が起きること。1961年, アメリカの精神科医が入学から1か月ほど経過した大学生に見られる無気力, 無関心など軽いうつ症状であることを医学会で初めて発表した。

五十肩 Frozen shoulder or Adhesive capsulitis 【その他】 [capsulitis (被膜炎) : capsule (カプセル) は cap (つかみ取る) が語源で, いつでもつかみ取れるようにするものと解釈でき, カプセルを意味する。また, ラテン語の capsula (小さな箱または宝箱) に由来 + itis (炎症)] 五十肩は, 江戸時代の書物「俚言集覧 (りげんしゅうらん)」に, 「凡, 人五十歳ばかりの時, 手腕, 骨節痛

む事あり、程過ぐれば薬せずして癒るものなり、俗にこれを五十腕とも五十肩ともいう。また長命病という」という一節に登場するほど昔からある病気で、その名称は50歳くらいになると起こることに由来する。現在は、①肩に疼痛(痛み)や運動障害、②患者の年齢が40歳以上、③明らかな原因が無い、という3条件を満たすものを五十肩と呼んでいる。

原因：肩関節の周囲に起こる炎症による。

症状：肩関節付近に鈍痛が起こり、腕の可動範囲の制限が起こる。

骨粗鬆症 Osteoporosis 【症状】[oste(骨の意味の接頭辞)+porosis(孔,あな)]

Osteoporosisは骨が穴だらけになった状態といった意味。骨粗鬆症は、骨の中身が粗く細かい穴が沢山できた状態といった意味。なお、骨粗鬆症の「鬆」の字の成り立ちは、松の葉の重なりから向こうがすけて見えるさまからである。

原因：骨の強度が低下することで引き起こされる。

症状：自覚症状がほとんどない。転倒やくしゃみなどのわずかな衝撃でも骨折しやすくなる。骨折しやすい部位は、背骨の柱となる椎体や大腿骨近位部、前腕骨遠位部、上腕骨近位部など。

コヴィッドナインティーン COVID-19

→新型コロナウイルス感染症 COVID-19

コレラ Cholera 【感染菌】[ギリシャ語の khole, chole(黄色胆汁体液)に由来。]

江戸時代、コレラに罹ると三日程で死んでしまうことから三日コロリと呼ばれ、恐れられていた。原因菌のコレラ菌 *Vibrio cholerae* の vibrio は振動するという意味で、顕微鏡で見たときに vibration バイブレーションしている(振動しながら動く)菌という意味でビブリオという名称がついた。

原因：コレラ菌を病原体とする経口感染による。

症状：突然腹がごろごろ鳴り，水のような下痢が1日20～30回も起こる。

治療しなければ患者は数時間のうちに死亡する場合もある。

コクシジオイデス症 *Coccidioidomycosis* 【感染菌】 米国南西部（乾燥地域），メキシコ，中南米の半乾燥地域の風土病で溪谷熱 *valley fever*，砂漠リューマチ *desert rheumatism* あるいは砂漠熱 *desert fever* とも呼ばれている。農作業に従事する人や汚染された土壌に触れた人が，胞子を吸い込み感染するケースがほとんどである。

原因：*Coccidioides immitis* あるいは *C. posadasii* などの真菌の感染による。

症状：結節や空洞病変。重症の場合は，肺から体全体に感染が広がりしばしば死に至る。

【 さ 】

SARS サーズ（重症急性呼吸器症候群） *Severe acute respiratory syndrome* 【その他】

SARS サーズは， *severe acute respiratory syndrome* の各語の先頭の文字をつくり合わせた頭字語。2003年に世界規模で流行したが，同年7月には終息宣言が出され，2004年以降は発生していない。しかし，このウイルス自体は絶滅したのではなく，コウモリの体内で共生しており，今後も流行する可能性はある。SARSと類似した重症肺炎を起こすコロナウイルス感染症には，2012年に同定された中東呼吸器症候群 MERS，2019年末から全世界で流行しはじめた新型コロナウイルス感染症 COVID-19 がある²⁴⁾

原因：SARS コロナウイルス SARS-CoV による感染。

症状：急速に悪化する肺炎を起こす。

→新型コロナウイルス感染症 COVID-19

細菌性赤痢 *Shigellosis* or *Bacillary dysentery* 【感染菌】 [*shigell* (赤痢菌の *shigella*

から)+o(連結母音)+sis(病態を意味する)] 赤痢菌 *Shigella* は，1898年

に志賀潔によって発見され、その名の志賀（Shiga）にちなんで *Shigella* という属名が付けられた。赤痢菌には、A群（志賀赤痢菌 *Shigella dysenteriae*）、B群（フレキシネル菌 *S. flexneri*）、C群（ボイド菌 *S. boydii*）、D群（ソネネ菌 *S. sonnei*）の4種がある。なお、赤痢アメーバを病原体とする感染症のアメーバ赤痢とは異なる病気。

原因：赤痢菌 *Shigella flexneri* の感染による。

症状：大腸の粘膜の炎症、潰瘍、発熱、下痢など。

→アメーバ赤痢

サリドマイド胎芽病（アザラシ肢症）Thalidomide embryopathy 【その他】

[embryopathy（胎芽病）：embryo（胚）はギリシャ語の embryo（胎児が発達の初期段階で子宮内にあるから）が語源+pathy（苦痛、感情、病気、療法）はギリシャ語の pathos（感情、苦悩）が語源。] 妊娠期にサリドマイド thalidomide を含有する薬を内服した妊婦より生まれた児において、薬剤の影響で先天的に生じた破格（奇形）や障害の総称。1960年頃にドイツ、日本、英国など世界各国で発生した、最初の薬害事件²⁵⁾

サル痘 Monkeypox 【感染菌】[pox（痘瘡）] サル痘の呼び名がついたのは、ウイルスが発見されたのが実験用のサルだったことによる。しかし、もともとウイルスを持っていたのはネズミなどのげっ歯類とみられており、事実にはそぐわなかった。また、一部の国でサルの虐待が起きたことなどがきっかけになり、WHOはサル痘の病名をエムボックス mpox に変更することを推奨している³⁾。これを受け日本でも2023年5月にカタカナ表記でエムボックスに変更された。

原因：発疹などの病変部分や体液などへの接触。アフリカ生息のリスなどのほか、サル痘ウイルスを保有するサルやウサギとの接触。

症状：発熱、リンパ腫の腫れ、発疹など。

→エムポックス

サルモネラ感染症 *Salmonella infections* 【感染菌】サルモネラ *Salmonella* という属名は、1885年にアメリカでサルモネラ属の基準株であるブタコレラ菌 *Salmonella enterica serovar Choleraesuis* を発見したアメリカの細菌学者ダニエル・エルマー・サルモン Daniel Elmar **Salmon** にちなんで付けられた。

原因：サルモネラ *Salmonella enterica* の感染による。

症状：発熱，吐き気，嘔吐，下痢など。

【し】

シェーグレン症候群 Sjögren's syndrome 【人名】1933年、スウェーデンの眼科医ヘンリク・シェーグレン Henrik Sjögren が論文で発表したことによる。自己免疫性疾患の一種であり、涙腺や唾液腺だけでなく全身の関節，肺，皮膚，消化管，腎臓などにダメージが及ぶこともある。

原因：免疫のバランスが崩れることによるが，その原因は不明。

症状：口腔内乾燥，結膜乾燥，多発性筋炎。

ジカウイルス感染症 Zika virus disease 【感染菌】[Zikaはウガンダのジカ Zika の森の地名。] 2016年に中南米で大流行をきたし，妊婦が感染すると胎児に小頭症などの先天性障害をきたすジカウイルス *Zika virus* は，ウガンダのジカ Zika の森で初めて分離されたが，ヒトに急性熱性疾患をひきおこすことが確定したのは分離から約20年後のことである。

原因：ジカウイルスの感染による。

症状：かゆみを伴う発疹，関節痛，結膜炎など。妊婦が感染した場合，胎児に先天性小頭症をきたす。

自己免疫疾患 Autoimmune disease 【その他】[autoimmune：auto(自分)+immune

(免疫) は im (否定) + mun (変わる) に由来し、「外的要因で変わらない力があるような」という意味で免疫という言葉が使われるようになった。] 20世紀初めに、ドイツのパウル・エールリヒ Paul Ehrlich は自己中毒忌避 Horror autotoxicus という言葉で、免疫系が自分自身の身体組織を攻撃する「自己免疫」という現象を想定し、何らかの形で抑制されていると提唱した。

原因：異物を認識し排除するための役割を持つ免疫系が、自分自身の正常な細胞や組織に対して過剰に反応し攻撃を加えてしまうことによる。

症状：ダメージを受ける部位や臓器の種類によって大きく異なる。

脂質異常症 Dyslipidemia 【症状】 [dys (打消しの意味の接頭辞) + lipidemia (脂質血症) は lipid (脂質) と emia (血液の状態, 血症) に由来。] 血液中にふくまれるコレステロールや中性脂肪 (トリグリセライド) などの脂質が、一定の基準よりも多い状態。2007年、高脂血症 hyperlipidemia という用語は病態を正しく表していないとして、日本動脈硬化学会が診断名を脂質異常症に改訂した。

原因：運動不足, 偏った食事, 肥満などの生活習慣。

症状：症状が現れないことが多い。

歯周病 Periodontitis 【部位】 [peri (周囲, 周辺の意味がある接頭辞) + odon (歯) + itis (炎症)] 歯肉, セメント質, 歯根膜および歯槽骨より構成される歯周組織に発生する慢性疾患の総称。歯周病原因細菌として、ポルフィロモナス・ジンジバリス *Porphyromonas gingivalis*, プレボテラ・インテルメディア *Prevotella intermedia*, アグリゲイティバクター・アクチノミセテムコミタンス *Aggregatibacter actinomycetemcomitans*, フソバクテリウム・ヌクレア *Fusobacterium nuclea*, タンネレラ・フォーサイシア *Tannerella forsythensis*, トレポネマ・デンティコラ *Treponema denticola* などが知られている。日本人の35歳以上の約8割がこの病気にかかっているといわれており、生活習

慣病の一つに数えられている。

原因：不十分な歯磨きや甘いものの食べ過ぎなどによって歯と歯ぐきの間
に歯垢ができると、細菌が増えて歯ぐきに炎症を起こすことによる。

症状：歯ぐきが赤く腫れたり、歯が抜け落ちたりする。

シスチノーシスあるいはシスチン尿症 Cystinosis 【その他】 [cystine (アミノ酸のシスチン)+-osis (～症)] 全身のさまざまな臓器（主に腎臓，眼の角膜，甲状腺など）にシスチン cystine が蓄積する先天代謝異常症。シスチンは毛や角などに多く存在しているが，初めて膀胱結石より発見されたのでシスチン（膀胱の意）と命名された。

原因：尿細管における遺伝性の異常であり，シスチンの再吸収が障害されることで，その尿中排泄が増加する結果，尿路内に形成されるシスチン結石による。

症状：仙痛。

持続性知覚性姿勢誘発めまい Persistent postural-perceptual dizziness : PPPD

【その他】 [Dizziness (愚かさ) は dizzy と -ness から派生し，1400 年頃からはめまいの意味でも使われるようになった。] 2017 年，バラニー学会 Barany society (国際的なめまい平衡医学の学会) がその診断基準を策定した疾患の日本語名。2018 年に WHO 国際疾病分類 ICD-11 に新規収載された。めまいは英語では，回転するのように感じるめまいの症状を vertigo バーティゴ，それ以外のめまいの症状を dizziness デイジネスと呼ぶ。

原因：姿勢制御，空間識，情動に関わる感覚処理の異常。

症状：浮動感，不安定感，非回転性めまい。

ジフテリア Diphtheria 【感染菌】 [ギリシャ語の diphtheria (leather hide なめし革) という語に由来。] Diphtheria は，フランスの伝染病学者ピエール・

ブレトノー Pierre Bretonneau (1778-1862) の命名である。ジフテリア菌 *Corynebacterium diphtheriae* は、まっすぐ、またはわずかに湾曲した、先端成長型の桿菌であり、棍棒状の形態を示す。属名の *Corynebacterium* [coryne (棍棒状の)+bacterium (細菌)] は、この形態に由来する。一度発症すると死亡率が高い病気であることから、ワクチンによる予防対策が重要。

原因：ジフテリア菌が鼻やのどの粘膜に感染することによる。

症状：のどの奥に灰色の厚い膜ができ、空気の通り道が狭くなり息が苦しくなる。

自閉症 Autism

→自閉症スペクトラム症

自閉症スペクトラム症 Autism spectrum disorder: ASD 【症状】 [autism (自閉症) はギリシャ語の autós (自己) が語源。spectrum (連続体) は spectro (分光) が語源。] 自閉症スペクトラムはイギリスの精神科医ローナ・ウイング Lorna Wing が提唱した概念。スペクトラム spectrum は連続体を意味し、可視光線を分離すると虹のように異なる色が連続して見えるように、自閉症も重い自閉症から軽い自閉症、さらには健常人までが境目なく繋がっていることを表す。2013年、アメリカ精神医学会の診断基準 DSM-5 の発表において、自閉症、広汎性発達障害、アスペルガー症候群などのいろいろな名称で呼ばれていた病名を自閉症スペクトラム症として呼ぶことになった。

原因：不明。

症状：社会性、コミュニケーション、想像力の3つの面で同時に障害を持つ。

→アスペルガー症候群

重症熱性血小板減少症候群 Severe fever with thrombocytopenia syndrome: SFTS

【感染菌】 [thrombocytopenia (血小板減少症) : thromb (血栓症) はギリシャ語

の thrombos (血栓) に由来 + o (連結母音) + cytopenia (血球減少) : cyto はギリシャ語の kutos (空洞, 容器) に由来し, 細胞という意味 + penia はギリシャ語の peniā (貧弱, 欠乏) に由来し, 「不足, 欠乏」の意味する名詞を作る。] 主にウイルスを保有しているマダニに刺されることにより感染するダニ媒介感染症で, 致死率は 10~30% 程度である。

原因: ブニヤウイルス科フレボウイルス属の重症熱性血小板減少症候群 (Severe fever with thrombocytopenia syndrome : SFTS) ウイルスの感染による。

症状: 発熱, 嘔吐, 腹痛, 下痢など。

シャーガス病 Chagas' disease

→トリパノソーマ症

ジューリング疱疹状皮膚炎 Dühring dermatitis herpetiformis

→デューリング疱疹状皮膚炎

猩紅 (しょうこう) 熱 Scarlet fever 【症状】 [scarlet は色の名前で, 高度に色彩的で輝かしい赤色のこと。] 1670 年代, 小さく点状で赤みを帯びた発疹からこの名前が付けられた。小児に多い発疹性伝染病。抗生物質の開発により, 治療が容易になったので, A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (溶連菌感染症) として診断・治療を行う。猩紅は英語で scarlet スカーレットといい, 黄色がかった赤色のこと。

原因: A 群溶血性連鎖球菌 (A 群溶連菌) *erythrogenic toxin* の感染による。

症状: 急な発熱, のどの痛み, 全身に特徴的な発疹, 舌がイチゴのように赤くなるイチゴ舌。

重症急性呼吸器症候群 Severe acute respiratory syndrome

→SARS サーズ

新型コロナウイルス感染症 COVID-19 【感染菌】〔COVID-19は **coronavirus disease** の略称で、19は最初にウイルスが発見された2019年を表す。〕2019年に発生した新型コロナウイルス感染症はCOVID-19の正式名称で呼ばれ、WHOが命名した。英語では **coronavirus disease 2019** または **coronavirus disease** とも表記される。日本においては新型コロナウイルス感染症（COVID-19）と併記される。病因ウイルスの **severe acute respiratory syndrome coronavirus 2** は、**SARS-CoV-2** と略される⁴⁾

原因：SARS-CoV-2がヒトに感染することによって発症する気道感染症。

症状：発熱、鼻汁、喉の痛み、せき、倦怠感など。症状が悪化すると肺炎になる。

→SARS サーズ

心身症 Psychosomatic disease 【症状】〔**psychosomatic**（心因性の、心身の）：**psycho**（心、精神）はギリシャ語の **psykhe**（精神）が語源 + **soma**（体） + **tic**（「～的な、らしい」を意味し、形容詞をつくる接尾語）に由来。〕心身はここからだのこと。心身医学 **psychosomatic medicine** という言葉は1818年、ドイツ人精神科医ヨハン・クリスチャン・オーガスト・ハインロート **Johann Christian August Heinroth**（1773-1843）の睡眠障害についての論文で初めて使われた。身体疾患の症状発現や症状の消長に心の問題の関与が大きい身体疾患の総称。

原因：精神の持続的な緊張やストレスによる。

症状：頭、肩、腹部、手足などの痛み、吐き気、倦怠感など。

心的外傷後ストレス症 Posttraumatic stress disorder：PTSD 【症状】〔**traumatic**

(トラウマ的な、外傷性の)はギリシャ語の **trauma** (傷, 痛み, 敗北) に由来。] 1930年代, アメリカの精神科医ハリリー・スタック・サリヴァン **Harry Stack Sullivan** によって定義された。

原因: ト라우マになる出来事 (命が脅かされる出来事, 重篤なけがなど) を経験したことによる。

症状: 激しい精神的な苦痛が長期間続く。

腎性尿崩症 Nephrogenic diabetes insipidus 【症状】 [**nephrogenic** (腎性) + **diabetes** (多尿) はギリシャ語の **diabetes** (サイフォンを意味する) に由来 + **insipidus** (無味)] 1947年, ロバート H. ウィリアムズ **Robert H. Williams** とコール・ヘンリー **Cole Henry** が病名を付けた。

原因: 腎臓において腎尿細管細胞の抗利尿ホルモン **antidiuretic hormone** への感受性が低下して, 尿の水分の再吸収が障害されることによる。

症状: 1日の尿が3L以上に増える。のどの渇き, 大量の水分摂取。

→尿崩症, 中枢性尿崩症

腎臓病 Kidney disease 【部位】 [**kidney** の語源は気質という意味の中世英語。「**She is a person of the same kidney.**」といえば「彼女と私は同じタイプね」となり, 「**a man of the right kidney**」は「まっすぐな人」という意味になる。腎臓は血液浄化や水分調節, ホルモンバランスを整えるなど, からだの重要な諸機能をつかさどる臓器であることから, 人間の「生き方や特徴」を表す語として **kidney** (気質) が当てられた。] 腎臓の糸球体や尿細管が冒され, 腎臓の働きが悪くなる病気。腎臓病には, 腎炎, ネフローゼ症候群, 腎不全, 腎癌, 腎結石, 嚢胞腎, 腎盂腎炎などがあり, それぞれの原因や症状は異なる。

じんましん, 蕁麻疹 **Urticaria or Hives** 【症状】 [**urticaria** (じんましん) はラテ

ン語の *urtica* (ネトル, 刺すようなネトル) に由来。hives (赤みとかゆみを伴う隆起した発疹) はイラクサを意味するラテン語が語源。] 蕁麻疹 (じんましん) は, ヒトがイラクサ (漢名は蕁麻) の葉に触れると, 痒みを伴う発疹が出現するため, この名前に由来する。ネトルは英語の *needle* (針) に由来する。和名のイラクサも漢字で刺草と書き, その名の通り, 葉や茎に細く鋭い棘があり触れるとヒリヒリとした痛みを伴い腫れることがある。

原因: マスト細胞からかゆみやむくみを誘導する成分 (ヒスタミンなど) が分泌されることによる。

症状: 少し膨らんだ発疹。

【す】

水痘 Chicken pox or Varicella 【感染菌】 [chicken (鶏) + pox (痘瘡)。varicella (水痘)] 一般にはみずぼうそうとして知られる。水痘の「痘」は病と豆の併せ字で, 体に豆の様な物が出来る病気を指す。chicken pox は発疹が毛を聳った鶏の肌のおつおつに似ていることから付けられた。19世紀末までは, 水痘と天然痘は明確に区別されていなかった。

原因: 水痘帯状疱疹ウイルス *Varicella zoster virus* の感染による。

症状: 強いかゆみを伴う発疹が全身に広がる。

→天然痘

髄膜炎菌性髄膜炎 Meningococcal infection 【感染菌】 [meningococcal (髄膜炎菌性の) は mening (髄膜) + coccal (球菌の) に由来。] 髄膜炎を起こす病原性細菌はいくつか知られているが, 大規模な流行性の髄膜炎の起炎菌は髄膜炎菌 *Neisseria meningitidis* のみであることから, 流行性髄膜炎ともよばれる。髄膜炎菌の *neisseria* は, 1876年に淋菌 *Neisseria gonorrhoeae* を発見したドイツの菌学者アルベルト・ルートヴィヒ・ジージェスムント・ナイサー Albert Ludwig Sigismund Neisser にちなみ命名された。

原因：髄膜炎菌の感染による。

症状：発熱，倦怠感，嘔吐，頭痛，出血斑。けいれんや意識レベルの低下などの重篤な症状が現れることもある。回復後，難聴，麻痺，てんかんなどの後遺症を残すこともある。

→淋菌感染症

スティーブンス・ジョンソン症候群 *Stevens-Johnson syndrome* 【人名】アメリカの二人の小児科医師アルバート・メイソン・スティーブンス *Albert Mason Stevens* とフランク・チャンブリス・ジョンソン *Frank Chambliss Johnson* が存在を確認したことによる。スティーブンス・ジョンソン症候群は38℃以上の高熱を伴い全身の皮膚に紅斑，水疱，びらんを生じる疾患。日本では水疱，びらんなどによる皮膚の剥離が体表面積の10%未満の場合をスティーブンス・ジョンソン症候群，10%以上の場合を中毒性表皮壊死症と診断している。

原因：抗生物質，解熱消炎鎮痛薬，抗てんかん薬などの医薬品による。

症状：高熱，重篤な粘膜，皮膚症状など。

→中毒性表皮壊死症

スペインかぜ *Spanish flu or Flu pandemic* 【地名】1918～1920年，全世界的に大流行したH1N1亜型インフルエンザの通称で，初期にスペインから感染拡大の情報もたらされたため，この名で呼ばれている。しかし，2015年以降，報道などで繰り返し使用されることで，差別や不利益の原因となることを避けるため，ヒトの新興感染症には地名や動物の名称を使用しないようWHOが推奨している。アメリカ疾病予防管理センター *Centers for Disease Control and Prevention* では，スペインかぜは1918 pandemic（あるいは1918-19 flu pandemic (H1N1)，1918 flu など）と表記されている。

原因：スペインインフルエンザウイルス *Spanish flu virus* の感染による。

症状：発熱，頭痛，喉の痛み。

スモン SMON（亜急性脊髄視神経炎 **Subacute myelo-optic neuropathy**）【その他】[subacute：sub（下の，従属の，副～，亜～）はラテン語の前置詞 sub（下に）が語源+acute（急性）はラテン語の *acutus*（鋭い，尖った）が語源。myelo-optic（骨髄視神経）：myelo（骨髄，脊髓）はギリシャ語の *myelos*（髄，脳）に由来。optic（光学的）は中世ラテン語の *opticus*（視覚または見ることに関する）に由来。neuropathy（神経障害）：neuro（神経）はギリシャ語 *neuron*（腱，糸）に由来+pathy（苦痛・感情・療法）はギリシャ語の *suffering* に由来。] スモン SMON は，**Subacute Myelo-Optic Neuropathy** の頭字語。1955年頃より整腸剤キノホルム（クロロ-7-ヨード-8-キノリノール）による薬害が発生し，1967～1968年に患者発生数がピークとなった。日本では，キノホルムの使用が1970年に禁止された。

原因：キノホルムを服用したことによる。

症状：下肢の痺れ，脱力，歩行困難，視覚障害。

【せ】

閃輝暗点（せんきあんてん）**Scintillating scotoma** 【その他】[scintillating（火花を発する）：動詞形は *scintillate* で，ラテン語の *scintilla*（火花，閃光）に由来+scotoma（暗点）：ギリシャ語の *skotoun*（暗くする）から派生した *skotōma*（めまい）に由来。ラテン語では *scotoma scintillans* と呼ぶ。] 片頭痛の前兆として有名で，別名で「偏頭痛の前兆」を意味するマイグレイン・オーラ *migraine aura* あるいは偏頭痛オーラと呼ばれている。19世紀のイギリスの医師ヒューバート・エアリー *Hubert Airy* (1838-1903) が報告した最初の視覚オーラである。一方，1941年にアメリカの心理学者兼行動学者カール・スペンサー・ラシュレー *Karl Spencer Lashley* は，閃輝が大脳皮質視覚野ニューロンの興奮を，暗点は徐々に広がることを意味するが，これは興奮・抑制

の波が視野中心部の投射野から視野辺縁部の投射野に向かって進むものであることを解明した。その後、1944年にブラジルの神経生理学者アリストイデス A. P. レオン Aristides A. P. Leão が大脳皮質に発生する皮質性拡張性抑制現象 cortical spreading depression : CSD がラシュレーの報告した閃輝暗点の移動に相当するものであることを報告した²⁶⁾ 芥川龍之介も閃輝暗点に悩まされていたようで、「歯車」の小説中で「たえず回転する半透明の歯車」など、閃輝暗点のことを「歯車」と名付け一連の現象を記載している。

原因：後頭葉の血流低下とされていたが、現在は大脳皮質神経細胞の活動性異常が視覚の中枢がある大脳後頭葉から始まり徐々に周辺に広がる CSD との説が有力とされている。

症状：突然視野の中にキラキラ、ギザギザした光の波ができ、10～20分持続後、片頭痛へと移行することが多い。頭痛以外に吐き気・嘔吐といった症状が現れる場合もある。若いときほど回数が多く、年齢と共に回数が減ることが多い。

前立腺肥大 Benign prostatic hyperplasia 【症状】 [benign (良く生まれた) + prostatic (前立腺の) + hyperplasia (過形成) は hyper (超える) + plasia (形成, 成長) に由来。] 前立腺尿道周囲部が良性腺腫として増大した状態を示すために、benign (良く生まれた→良性の) が病名の一部になっている。

原因：加齢に伴う男性ホルモンの変化により前立腺が大きくなることにより、尿道が細くなる。

症状：排尿困難、尿閉 (尿が出ない)、頻尿など。

【そ】

双極性障害 Bipolar disorder 【症状】 [bipolar (二極性の) は, bi (二) + polar (極の) に由来。] 躁状態とうつ状態とを反復する精神疾患のこと。これまで、躁うつ病 manic depressive illness という病名が広く使われてきたが、最近で

は双極性障害が使われる²⁷⁾ なお、うつ病とは別の病気。

原因：不明。

症状：気分の高揚やゆううつな気分が何日も続き、周囲の人から見ても明らかにいつもと違う症状。

→躁病, うつ病

躁病 Mania 【症状】 [ギリシャ語の mania (狂気, 狂乱, 熱狂, 激怒など) に由来。] 病名ではなく、双極性障害 (躁うつ病ともいう) での躁病の期間のこと。気分が異常に高揚し、支離滅裂な言動を発したり、危険を顧みなくなるような状態になる期間 (病相) をいう。19世紀まで、躁とうつはまったく異なる障害だとみなされたが、1851年にフランスの精神科医ジャン・ピエール・ファルレ Jean-Pierre Falret がこの2つの間を循環するという初の概念を提示し、19世紀末までには広く認識された。

→双極性障害

ゾリンジャー・エリソン症候群 Zollinger-Ellison syndrome 【人名】 1955年、二人のアメリカ人の外科医ロバート・ミルトン・ゾリンジャー Robert Milton Zollinger とエリク・ホーンブルガー・エリソン Erik Homburger Ellison が、難治性消化性潰瘍、胃酸分泌亢進を伴う膵島細胞腫瘍を初めて報告したことにより、病名に二人の名前が使われた。

原因：膵臓や胃・十二指腸壁に発生したガストリンを産生する細胞の腫瘍 (ガストリノーマ) による。

症状：胃酸過多, 胃潰瘍, 十二指腸潰瘍。

【た】

帯状疱疹 Herpes zoster or Shingle 【症状】 [herpes (ヘルペス, 疱疹) はギリシャ語で這うという意味。zoster (帯状疱疹, 古代ギリシャの男性が着用したべ

ルト) : zone (領域, 区域) はラテン語の *zona* から派生し, 地理的な帯, 天体の帯という意味。ギリシャ語の *zōnē* は, 女性が腰に巻くベルト, 帯という意味。shingle : 屋根や壁に使われる細長い板のこと。] 病名は, 赤い斑点と小さな水ぶくれが帯状にあらわれる皮膚症状の特徴に由来している。初めて水痘・帯状疱疹ウイルス *varicella zoster virus* に感染したときは, 水痘として発症する。多くの場合, 水痘は子どもの頃に発症し1週間程度で治るが, 治癒後もウイルスは体内の神経節に潜伏し, その後, 加齢やストレス, 過労などが原因となってウイルスに対する免疫力が低下すると, 神経節に潜伏していたウイルスが再活性化し, 神経を伝わり皮膚に到達して, 痛みを伴う赤い発疹を生じる。通常は生涯に一度しか発症しないが, 免疫が低下している場合には再発することもある。

原因 : 水痘・帯状疱疹ウイルスの感染による。

症状 : 体の左右どちらかに紅斑が帯状に広がり, その上に小さな水ぶくれが生じる。発疹はチクチク, ピリピリする痛みを伴う。

大動脈解離 Aortic dissection 【部位】 [aortic (大動脈の) の名詞形は aorta (大動脈)。dissection (解剖, 切開) は dis (離れて) + section (部分) に由来。section はラテン語の *secare* (切る) が語源で, sect (切る) + tion (こと, もの) に由来。] 3層 (外膜, 中膜, 内膜) 構造を作っている大動脈のうち, 何らかのきっかけで中膜に血流が入り込み, 層構造が別々に剥がれていく疾患。なお, 解離性大動脈瘤 *dissecting aneurysm of the aorta* は大動脈の径が拡大して瘤形成を認める。

原因 : 大動脈にかかるストレスの大きさと大動脈の壁の強さのバランスが崩れることによる。主な原因は高血圧などに起因する動脈硬化。70歳代で発症するケースが多い。

症状 : 胸あるいは背中に杭が刺さるような激痛。

ダウン症候群 Down syndrome 【人名】1965年、最初の報告者であるイギリス人の内科医ジョン・ラングドン・**ダウン** John Langdon Haydon Down の名にちなみ正式名称となった。以前は、蒙古症とも称された。新型出生前診断で判明する染色体異常で、21トリソミーとも呼ばれる。

原因：通常21番目の染色体が1本多く3本ある。

症状：特徴的な顔面、小頭症、低身長、神経発達遅滞など。

ダニ媒介性脳炎 Tickborne encephalitis 【感染菌】[tickborne (ダニ媒介の)は tick (ダニ) + borne (bear の過去分詞形で運ぶ、連れて行く)に由来。encephalitis (脳炎)：encephal はギリシャ語の enkephalos (頭の中)に由来 + itis (炎症)。] マダニ科に属する各種のマダニ tick によって媒介されるフラビウイルス感染症。欧米では、大型の吸血性のダニであるマダニ tick とそれ以外のダニ mite を区別している。

原因：ダニ媒介性脳炎ウイルス *Tick-borne encephalitis virus* の感染による。

症状：頭痛、発熱、悪心、嘔吐に始まり、精神錯乱、昏睡、痙攣、麻痺などのウイルス性脳髄膜炎の病態へ進行²⁸⁾

ダリエー病 Darier disease 【人名】フランスの皮膚科医フェルディナン・ジャン・ダリエー Ferdinand-Jean Darier によって発見されたことによる。

原因：小胞体の Ca^{2+} ポンプをコードする ATP2A2 遺伝子 (12q23~q24.1) の変異による。

症状：脂漏部位における角化性丘疹の出現と爪の異常。

炭疽 Anthrax 【症状】[anthrax はギリシャ語で炭の意味。] この名称は黒いかさぶたができることに因む。炭疽とは炭のかさぶたを意味する。炭疽菌 *Bacillus anthracis* を起因菌とする急性敗血症性の動物由来感染症。ヒト、家畜問わず致死率が高く、感染経路によってはエボラ出血熱やペストに匹敵す

るほど危険な感染症（感染症法で4類感染症に指定）。

原因：炭疽菌の感染による。

症状：皮膚炭疽（経皮感染）、腸炭疽（経口感染）、肺炭疽（吸入感染）。

【ち】

注意欠如・多動症 Attention deficit/hyperactivity disorder : ADHD 【症状】 この診断名は、1994年からの精神障害の診断と統計マニュアル Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders, DSM-IV に記載されている名前である。以前の DSM-III の注意欠陥障害（ADD）や ICD-10 の多動性障害を継承するもので、口語的には多動症と呼ばれてきた。一般にアスペルガー症候群（他者理解・共感力の欠如が症状の特徴）と混同されがちだが、アスペルガー症候群には ADHD の併存も少なくない。

原因：不明。

症状：多動性、衝動性、不注意などの症状を特徴とする発達障害もしくは行動障害。

→アスペルガー症候群

中東呼吸器症候群コロナウイルス Middle east respiratory syndrome coronavirus : MERS-CoV 【感染菌】 [coronavirus は corona (王冠) + virus (毒液, 粘液) に由来。] MERS-CoV は, middle east respiratory syndrome coronavirus の頭字語。MERS-CoV は当初「サウジアラビア」の名を冠していたのはエジプトの科学者が最初に確認した患者が、サウジアラビア人だったからだ。しかし、サウジ政府関係者が不快感を示したため、ウイルスの分析を行ったオランダ・エラスムス医学センター Erasmus medical center にちなむ名に変更された。しかしサウジの政治家たちはこれにも満足せず、研究者らが討論を重ねた結果、現在の MERS-CoV に落ち着いた。コロナウイルスは電子顕微鏡で見ると、膜に覆われた表面に突起のようなものが出ているのが見える。この

突起が王冠（ギリシャ語で corona コロナ）や太陽の光冠（コロナ）のように見えることから、coronavirus コロナウイルスという名前が付いた。

原因：2012年にサウジアラビアで初めて発見された MERS-CoV の感染による。

症状：発熱，咳，息切れ，肺炎など。

中枢性尿崩症 Central diabetes insipidus 【症状】 [diabetes (多尿) はギリシャ語の diabetes (サイフォンを意味する) が由来 + insipidus (無味)。尿が無味であることが由来。] 尿崩症は、水を体内に保つ作用を持つ抗利尿ホルモン (ADH) の分泌が欠乏することによる中枢性尿崩症と、ADH の効きが低下することによって尿量が増える腎性尿崩症の2つのタイプに分けられる。

原因：視床下部・下垂体の腫瘍など。しかし、患者の半数は原因不明。

症状：1日に3L以上の尿を排出する多尿。体内から尿と共に水分が排出されるため、十分な水分を補わないと脱水や電解質異常に陥りやすく、血圧低下などを引き起こすこともある。

→腎性尿崩症

中毒性表皮壊死症 Toxic epidermal necrolysis : TEN 【症状】 [epidermal (表皮性) の名詞形はギリシャ語の epidermis (外皮) が語源で、epi (上に) + derma (皮膚) に由来。necrolysis (脱疽) : necro (死) はギリシャ語の nekuro (死体, 死んだ人) に由来 + lysis (分解)] 1956年、スコットランドの皮膚科医アラン・ライエル Alan Lyell が表皮および粘膜の壊死および剝離を特徴とする重篤な皮膚障害の疾患に toxic epidermal necrolysis なる名称を提示して以来、臨床像が明確になり広く認知されたことにより、ライエル症候群 Lyell's syndrome とも呼ばれる。大部分の中毒性表皮壊死症はスティーブンス・ジョンソン症候群から進展して生じる。日本ではびらんなどによる皮膚の剝離が体表面積の10%以上の場合を中毒性表皮壊死症、10%未満の場合をステイ

ーブンス・ジョンソン症候群と診断している。

原因：サルファ剤などの抗菌薬，フェニトインやカルバマゼピンなどの抗てんかん薬，ピロキシカム，アロプリノールなどの副作用。

症状：発疹，粘膜のびらん，皮膚の剝離など。

→ステイブンス・ジョンソン症候群

チクングニア熱 Chikungunya fever 【感染菌】チクングニア chikungunya は、アフリカの現地語で痛みによって「かがんで歩く」という言葉に由来。

原因：ネッタイシマカやヒトスジシマカなどが媒介してチクングニアウイルス *Chikungunya virus* に感染することによる。

症状：高熱，倦怠感。

腸炎ビブリオ感染症 *Vibrio parahaemolyticus* infection 【感染菌】[vibrio (ビブリオ) は振動するという意味。parahaemolyticus (腸炎菌) は para (擬似, 副) + haemolyticus (溶血症) に由来。] 腸炎ビブリオ菌は顕微鏡で見ると、振動しながら動くので、バイブレーション vibration している菌という意味でビブリオという名称がついたといわれている。

原因：腸炎ビブリオ菌 *Vibrio parahaemolyticus* の腸管感染による。

症状：激しい腹痛，水様性の下痢。

腸チフス，パラチフス Enteric fever 【感染菌】[enteric (腸の) はギリシャ語の enterikos (腸に関する) に由来。] チフスという名称は、ヒポクラテスが古代ヨーロッパで流行していた発疹チフスに対して、発症時に見られる高熱による昏睡状態のことを表した「ぼんやりした，煙がかかった」を意味するギリシャ語の typhus (チフス) から付けられている。

原因：腸チフスはサルモネラ的一种であるチフス菌 *Salmonella enterica* var *enterica* serovar *Typhi* の感染による。パラチフスはパラチフス A 菌

Salmonella enterica subsp. enterica serovar Paratyphi A の感染による。

症状：高熱，徐脈，バラ疹，脾腫。

【つ】

痛風 Gout 【症状】 [中世フランス語の *gotte* (足首の広がり) が語源。] 日本語名の由来には以下の説が存在する。(1)痛みが起こる場所が，まるで風が吹くように全身の関節や骨端部を移動し，なおかつ風が強くなったり穏やかになったりするように痛みが酷くなったり和らいだりを繰り返すことから命名された。(2)痛みの悪風に中る (あたる) という意味で「痛風」となった。(3)痛みが出ている部分は吹いてきた風が当たるだけでも痛いから「痛風」となった。

原因：血液中の尿酸の濃度が高い状態が続く高尿酸血症による。

症状：赤く腫れ上がる。

【て】

手足口病 Hand, foot and mouth disease 【部位】 その名が示すとおり，口の中，手，足を中心に出る水疱性発疹を主症状とする感染症。発症の原因となるコクサッキーウイルス *coxsackie virus* やエコーウイルス *echovirus* はエンテロウイルス *enterovirus* と呼ばれるタイプのウイルス。これらのエンテロウイルスは接触感染と飛沫感染によって感染が広がるため，保育園，幼稚園，学校など子どもたちが密接して過ごすような環境で流行しやすい。主に夏季に流行するいわゆる「夏かぜ」の代表的疾患。なお，*echovirus* は **enteric cytopathogenic human orphan virus** の頭字語。手足口病では熱はあまり高くない。一方，同じようにウイルス感染で起こるヘルパンギーナは口内炎ができ，突然高熱がでる。

原因：エンテロウイルスの感染による。

症状：手，足，口にできる発疹，水疱。

→ヘルパンギーナ

デューリング疱疹状皮膚炎 *Duhring dermatitis herpetiformis* 【人名】 [*dermatitis* (皮膚炎) は *derma* (皮膚) + *itis* (炎症) に由来。 *herpetiformis* (疱疹状疱疹) : *herpetic* (ヘルペスに関する) は、ギリシャ語の *herpes* から派生 + *formis* (のような、形をした) はラテン語の *formis* (形状) に由来。] アメリカの皮膚科医ルイ・アドルフアス・デューリング *Louis Adolphus Duhring* (1845-1913) が著書「*Atlas of Skin Diseases*」を著し、その後「*A Practical Treatise on Diseases of the Skin*」の論文に疱疹状皮膚炎(デューリング病としても知られている)を描写したことにより、病名にデューリングの名前が付けられた。

原因：グルテンとそれに対する IgA との免疫複合体が、皮膚に沈着するために発症すると考えられている。

症状：紅斑や蕁麻疹様の発疹が皮膚に発生し、ついでその辺縁に小水疱が環状に配列する。

てんかん *Epilepsy* 【症状】 [*epilepsy* (てんかん) は *epi* (上) + *lepsy* (発作) に由来。] ソクラテス(紀元前 450 年頃生まれる) やユリウス・カエサル(紀元前 100 年頃生まれる) が発病した記録が残っており、古くから存在が知られている疾患の一つ。脳内の細胞に発生する異常な神経活動(てんかん放電)によっててんかん発作をきたす神経疾患あるいは症状。

原因：ストレス。

症状：意識消失、けいれんなど。

デング熱 *Dengue fever* 【感染菌】 [*dengue* はスペイン語の *denguero* (こわばり、引きつり) が語源。] これは英語の *dandy* (ダンディ、服装や振る舞いが洗練されていること) に相当し、患者が体の痛みのために気取ったような身のこなしを見せることに由来すると言われている²⁹⁾

原因：デングウイルス *Dengue virus* を持った蚊（ネッタイシマカやヒトスジシマカ）に刺されることによる。

症状：発熱，頭痛，筋肉痛，関節痛，はしかの症状に似た皮膚発疹。

天然痘 *Variola or Smallpox* 【感染菌】 [*variola* (天然痘) はラテン語の *varius* (変化する，多様な) に由来し，「斑点のある」という意味。 *smallpox* (天然痘) は *small* (小さい) + *pox* (痘症) に由来。] 痘瘡のこと。569年，スイスのアバンシュの司祭マリウム *Marium* が「斑点のある」を意味するラテン語の *varius* から *variola* (天然痘) と命名した。

原因：天然痘ウイルス *Variola virus* の感染による。

症状：高熱，倦怠感，頭痛などが現れ，その後熱が下がり斑状の皮疹が現れる。皮疹が水疱になる頃に下がっていた熱が再び上昇するのが特徴。また，敗血症，肺炎，脳炎などを合併することがあり，それらの合併症が死因となることもある。

【と】

統合失調症 *Schizophrenia* 【その他】 [*schizo* (分裂病) + *phren* (横隔膜すなわち心を意味する) + *ia* (～症)] 日本では明治時代に *schizophrenie* の日本語訳として精神分裂病が用いられたが，「精神が分裂する病気」という人格否定的な名称であった。そのため，2002年に日本精神神経学会は *schizophrenia* に対する訳語を統合失調症に変更した。この呼称変更は，全国精神障害者家族連合会が日本精神神経学会にその変更を要望したのが契機となっている。ドイツ語の *schizophrenie* は，*schizo* (分離した) + *phrenia* (精神) を表す。

原因：不明。

症状：陽性症状，陰性症状，認知機能障害，気分症状など。

糖尿病 *Diabetes mellitus* 【症状】 [ギリシャ語の *diabetes* (サイフォンを意味す

る)+ラテン語の mellitus (蜂蜜のように甘いを意味する)] Diabetes から始まる病名には, mellitus (蜜) の様に甘い尿が大量に出る diabetes mellitus 糖尿病と insipidus (無味) の尿が大量に出る diabetes insipidus 尿崩症がある。この diabetes を mellitus と insipidus に分類したのがスコットランドの医師 William Cullen ウイリアム・カレン (1710-1790年) である。日本で最初の糖尿病患者であったとされる平安時代の貴族、藤原道長の病名は、水を大量に飲む病気の飲水病と歴史書には書かれている。しかし、時代の流れと共に西洋医学が流入し、diabetes mellitus が直訳されて糖尿病になった。この病名は患者の尿に糖が混じることから名付けられた³⁰⁾

糖尿病は膵臓から分泌されるインスリンが何らかの原因でうまく働かず、体の中でブドウ糖を有効に活用できなくなる病気。現在では必ずしも尿から糖が出るわけではないことがわかっており、この病名が医学的に病気の実態に合っているとは言い難い。なお、病名には排泄物を指す尿の字が入っていることから不潔感や羞恥心を覚える人が多いという。子供の患者もおり、学校でからかわれやすいという問題もある。2022年11月に糖尿病の患者や医師らでつくる日本糖尿病協会は、日本糖尿病学会とともに新しい病名を検討することを発表した。そして、2023年9月には糖尿病の新しい呼称として「ダイアベティス」を提案した。

原因：血糖値を降下させる作用のあるインスリンの分泌量が低下したり、はたらきが悪くなったりすることによる。

症状：喉が渇き、水を沢山飲んで多尿になる。

→尿崩症

トゥレット症候群 Tourette syndrome 【人名】フランスの神経内科医ジョルジュ・ジル・ド・ラ・トゥレット Georges Gilles de la Tourette (1857-1904) が研究したことにより、病名にトゥレットの名前が付けられた。

原因：不明。

症状：チック（突発的で、不規則な、体の一部の速い動きや発声を繰り返す状態が一定期間継続する障害）。小児期に発症し、軽快・増悪を繰り返す。患者の約半数は18歳までにチックが消失する。

トラコーマ Trachoma 【症状】 [trachoma は、結膜に観察される trachy（ざらざらな）と oma（腫瘍）に由来。] 顆粒性結膜炎で産生されてくるトラコーマ顆粒の所見に与えられた名称。

原因：クラミジアトラコマティス *Chlamydia trachomatis* が目に感染することによる。

症状：結膜が炎症を起こして赤くなり、涙の量が過剰になる。まぶたが腫れ、眼は光に対して敏感になる。

トリパノソーマ症 Trypanosomiasis（アフリカ眠り病 African sleeping sickness, シャーガス病 Chagas' disease）【感染菌（虫）】ツェツェバエが媒介する寄生性原虫トリパノソーマ *trypanosome* によって引き起こされる人獣共通感染症。病状が進行すると睡眠周期が乱れ朦朧とした状態になり、さらには昏睡して死に至る疾患であり、これがアフリカ眠り病の病名の由来となっている。シャーガス病の病名は、1909年にこの疾患を初めて発見した、ブラジルの医師カルロス・シャーガス Carlos Chagas の名前に由来する。

原因：トリパノソーマと呼ばれる寄生虫が中枢神経系に侵入して発症する感染症。

症状：間欠熱，悪寒，頭痛，後頸部のリンパ節腫脹（ウインターボトム徴候）。慢性期には傾眠，末期の昏睡。

【 な 】

南米出血熱 South American hemorrhagic fever 【地名】 [hemorrhagic（出血性の）の名詞は hemorrhage（出血）で，hemo（血）はギリシャ語の haima（血液）

に由来する。rhage（壊す）は「かなりの量の流出」を意味する接尾辞。haimorrhageは「激しく出血する」を意味する。] 南米大陸で見られるアレナウイルス科に属するウイルスによって引き起こされるウイルス性出血性熱性疾患（アルゼンチン出血熱、ボリビア出血熱、ベネズエラ出血熱、ブラジル出血熱）の総称。

原因：流行地に棲息するげっ歯類（ネズミ科アメリカネズミ亜科のヨルマウス）の唾液や排泄物との接触または排泄物に汚染された食器や食物を介しての感染や汚染された粉塵の吸入，出血熱患者との接触など。

症状：発熱，筋肉痛，頭痛，眼窩後痛，血小板減少，中枢神経障害など。

【 に 】

日本脳炎 Japanese encephalitis 【地名】[encephalitis (脳炎)：encephalo はギリシャ語 enkephalos (頭の中) に由来し，脳を意味する。+itis (炎症)。] 日本脳炎は，1920年代に病気として認められ，当時，欧米で流行していたエコノモ脳炎と区別するために命名されたのが始まり。その後，1930年代になって日本の精神医学者 林道倫らにより日本脳炎ウイルスが患者から分離された。なお，日本脳炎ウイルスは分子疫学的にはインドネシアが発祥と考えられている。日本脳炎という名前は，1920年代からの日本人の研究者のさまざまな研究成果に対する勲章とも言える。ところが，1973年にインドで日本脳炎の大流行があった時に，インドの新聞などに「日本人が日本から持ち込んだのではないか？」と報道されて，現地の大使館が大迷惑だったというエピソードが残っている。

原因：日本脳炎ウイルス *Japanese encephalitis virus* に感染しているブタ，ウマ，鳥類を吸血した蚊がヒトを刺すことによって感染。

症状：発病率は，100～1,000人に1人程度。しかし，いったん脳炎症状を起こすと，致死率は20～40%前後と高く，回復しても半数程度は重度の後遺症が残る。

尿崩症 Diabetes insipidus 【症状】 [diabetes (多尿) + insipidus (無味) ; 英語名は糖尿病と違って尿が無味であることが由来。] 1日に3L以上の尿が排出されるようになる多尿を引き起こす病気の一つ。尿崩症は、水を体内に保つ作用を持つ抗利尿ホルモン (ADH) の分泌が欠乏することによる中枢性尿崩症と、ADHの効きが低下することによって尿量が増える腎性尿崩症の2つのタイプに分けられる。

→腎性尿崩症, 中枢性尿崩症, 糖尿病

認知症 Dementia 【症状】 [dementia はラテン語の demens (正気からはずれる) が語源で, de (否定) + ment (考える) に由来。] 認知症は, かつて「呆け」, 「痴呆症」と呼ばれていたが, 言葉がもたらす印象, 偏見への影響が考慮され, 2004年, 厚生労働省の用語検討会によって認知症への言い換えを求める報告がまとまり, 行政分野および高齢者介護分野において痴呆の語が廃止され認知症に置き換えられた。現在では学会にとどまらず広く一般的に使われている。しかし, 認知症はあくまでも状態を表す言葉で, 疾患名ではない。認知症の原因疾患はひとつではなく, アルツハイマー型認知症, 血管性認知症, レビー小体型認知症, 前頭側頭型認知症などがある。痴呆(症)については, 明治時代に東京大学精神科教授 呉秀三により, dementia (狂気, 正気からはずれる) の訳語として狂などの文字を避ける観点から痴呆が用いられたことに由来するとされる。日常的には大正時代ごろから痴呆が用いられ, 昭和期以降には一般にも普及し, 文学作品などにも使用される機会が増えている。たとえば, 安岡章太郎の「海辺の光景」では, 老耄性痴呆症と診断された主人公の母親の姿が認知症を生きるヒトと, 見守る家族の視点から描き出されている。

原因: アルツハイマー病, 血管性認知症, レビー小体型認知症など。

症状: もの忘れ (記憶の障害), これまでできたことができなくなる (遂行機能の障害), 言葉や認識力の低下といった認知機能の障害 (中核症状)

と呼ばれる), 不安, 幻覚, 妄想, うつ症状, 興奮, 暴言, 暴力, 徘徊などの症状(認知症の行動・心理症状と呼ばれる)。

→アルツハイマー病, レビー小体型認知症

【ね】

熱中症 Heat stroke 【その他】[heat(熱)+stroke(発作)] かつては, 夏の暑さや炎天下で具合が悪くなったり倒れたりした場合, 日射病, 熱射病などと呼ばれていた。熱中症とは, 体温が上がり, 体内の水分や塩分(ナトリウムなど)のバランスが崩れたり, 体内の調整機能が働かなくなったりして発症する障害のこと。

原因: 要因として, 気象条件(気温が高い, 湿度が高い, 日差しが強い)。

症状: めまい, だるさ, 気持ち悪さ, 吐き気, 意識障害など。

熱病 Febris 【症状】[febri- は fever(熱)の意味の接頭辞。] 体温が異常に高くなる病気の総称で, 猩紅(しょうこう)熱, 腸チフス, 肺炎, マラリアなどがある。

→猩紅熱, 腸チフス, 肺炎

【の】

ノイローゼ Neurosis 【カナ】[neuron(神経)+-osis(病態を意味する)] このカタカナ用語はドイツ語の neurose に由来。ノイローゼは神経症のことで, 精神病とは別物である。ノイローゼは身体に異常がないのに, 感情に問題があり比較的軽度な状態を含んだ総称的な診断名であるため, 診断名として現在では廃止されている。

原因: 目の環境に適応できず, 不安感にとらわれて精神的バランスが崩れることで起きる。

症状: 軽度のパニック障害, 強迫性障害など。

脳卒中 Cerebral apoplexy 【部位】 [cerebral (脳の) はラテン語の cerebrum (脳) に由来。apoplexy の語源はギリシャ語の apoplexia で、殴られて倒れる状態を意味する。] 中風, 中気, あたりとも称される。卒中の語源は, 卒然 (突然) 邪気や邪風に中 (あた) るという意味。なお, 中風と呼ばれたのは風が原因だと考えられたため。脳卒中には, 脳梗塞, 脳出血, くも膜下出血の3つがある。脳卒中は日本人の死因の第4位 (1位: がん, 2位: 心疾患, 3位: 老衰)。また, 寝たきりとなる原因の第1位。

原因: 脳内の出血や血液循環障害。

症状: 半身不随。

囊虫症 (のうちゅうしょう) Cystercercosis 【感染菌 (虫)】 囊虫はテニア属 *Taenia* の条虫の幼虫で, 外観が小さな袋状であることから付いた呼び名である。内部には液体が満ちており, そこに頭節 scolex がある。虫卵からかえった囊虫は人の体内において血流に乗って, あらゆる臓器へと寄生し, 寄生先の臓器に関連した症状を引き起こす。

原因: 有鉤条虫 *Taenia solium* (豚に寄生するサナダムシの一種) の幼虫による。

症状: 筋肉や皮膚でのしこり。眼球に関連した症状として, かすみ目, 視力障害, 失明することがある。脳や神経に関連した症状としては, 頭痛, 手足の麻痺, 認知症症状, けいれんなど。

ノロウイルス Norovirus 【感染菌】 ノロウイルスの名前は, 1968年にアメリカのオハイオ州ノーウォーク Norwalk という町で集団発生した急性胃腸炎の原因ウイルスが発見された土地の名前にちなんで, ノーウォーク・ウイルス *Norwalk virus* と呼んだことによる。2002年, 正式にノロウイルス *Norovirus* と命名された。

原因: ノロウイルスの感染による。

症状：非血性下痢，嘔吐，胃痛，発熱，頭痛。

【 は 】

肺炎 Pneumonia 【部位】 [pneumo (肺，呼吸) + ia (～症)] **Pneumonia** の前半の pneum は，ギリシャ語の pneuma (プネウマ，息の意味) が転じて肺，そして肺炎 pneumonia となった。

原因：気道を通して侵入した細菌やウイルスなどの病原体が肺内で増殖し，炎症が引き起こされることによる。

症状：発熱，咳，膿性痰。

敗血病 Sepsis 【その他】 [古代ギリシャ語の septikos (腐敗) が語源。] 1914年，ドイツの内科医，細菌学者フーゴー・ショットミュラー Hugo Schottmüller により提唱された「微生物が局所から血流に侵入し，病気の原因となっている状態」という考え方から始まり，これは「敗血症＝菌血症」とほぼ同じもの。その後，血流から菌が検出される菌血症でなくても同じような全身症状を呈することがわかった。1989年，米国のラッシュ医科大学内科教授ロバート A. ボーク Robert A. Balk らによって全身症状を伴う感染症のことを敗血症と呼ぶようになった。

原因：連鎖球菌，ブドウ球菌，大腸菌，緑膿菌などの細菌に感染に対する生体反応。

症状：悪寒，全身のふるえ，発熱，発汗など。重症化すると，腎不全や肝不全などの臓器不全，敗血性ショックを招き，命を落とす危険が高まる。

梅毒 Syphilis 【感染菌】 Syphilis (シフィリス) という単語は，イタリアの医師で詩人ジローラモ・フラカストロ Girolamo Fracastoro が 1530年頃に発表した『Syphilis, sive Morbus Gallicus (シフィリス，またはフランス病)』という詩の主人公 Syphilus の名前に由来している³¹⁾

原因：梅毒トレポネーマ *Treponema pallidum* の感染による。

症状：感染して3週間ほど経過した後に皮膚や粘膜に硬いイボが現れる。しかし、これらの病変は数週間で自然に治るため発症に気付かないことも少なくない。体内では梅毒トレポネーマの増殖が進み、一定の時間をおいてさまざまな症状が現れる。

パーキンソン症候群 Parkinson's syndrome 【人名】パーキンソン症候群とパーキンソン病では原因も症状の進み方もそれぞれ異なる。パーキンソン病と同様の症状を呈しながら、別の病因に関連している疾患をまとめてパーキンソン症候群と呼んでいる。

原因：脳血管性パーキンソニズム、慢性硬膜下血腫、正常圧水頭症、進行性核上麻痺、大脳皮質基底核変性症、多系統萎縮症など。

症状：ふるえ、動作緩慢、手足のこわばり、小刻み歩行など。

→パーキンソン病

パーキンソン病 Parkinson's disease 【人名】1817年、イギリスの外科医兼薬剤師のジェームズ・パーキンソン James Parkinson (1755-1824) がパーキンソン病の症状を呈した6症例を振戦麻痺 shaking palsy という名で初めて紹介したことにより、この病名にパーキンソンの名前が付けられた。

原因：脳のドパミン神経細胞が減少し、筋肉の運動を調節するドパミンが少なくなること。

症状：ふるえ、動作緩慢、手足のこわばり、小刻み歩行など。

→パーキンソン症候群

白癬 Tinea or Trichophytia or Ringworm 【感染菌】[tinea (たむし、白癬)はラテン語の tinea (食い虫、蛾、本の虫)に由来。ringworm (白癬、輪癬)は円形の斑点が現れる特定の皮膚病を意味する。] 一般的に爪水虫と呼ばれ、

ほとんどがトリコフィトン・ルブルム *Trichophyton rubrum* が原因。白癬は体の表面から見え、またかゆみを伴うことも多いため、水虫、たむし、いんきんたむし、しらくもなど多くの呼び名が付けられている。

原因：白癬菌 *Trichophyton* の感染による。

症状：かゆみ。爪白癬では爪が白色や黄色に濁って見える。

白内障 Cataract 【症状】[cataract (大雨, 洪水, 白内障) はギリシャ語の katarhaktēs (落下する滝) が語源で, cata (=kata) は「下へ」を意味する。] 白内障ということばは、白と内障とから成り立っている。白内障の目を外から見ると白く見えて、目の中の病気が考えられることから「内」側の「障」害を表す内障から白内障と名づけられた。日本では、古くは白内障を「しろそこひ」と呼んでいた。「そこひ」は漢字で書くと底翳。底は眼底（目の内側）を表し、翳はかげと読む。暗くなることでかげるに近い意味。眼底に障害があつて見えなくなる（暗くなる）ことを意味している。なお、白内障の「障」と同じ発音の「症」は「やまいだれ（疔）」の部首が付いており、病気に関係する漢字で、緑内障や白内障以外のほとんどの病名には「～障」ではなく「～症」が使われている。世界の失明の原因（2002年 WHO）は、白内障（47.8%）、緑内障（12.3%）、加齢黄斑変性（8.7%）、角膜混濁（5.1%）、糖尿病網膜症（4.8%）、トラコーマ（3.6%）の順である。

原因：水晶体を構成するクリスタリンが会合することで変性し、黄白色または白色に濁ることによる。根本的な原因は不明。

症状：水晶体が灰白色や茶褐色ににごり、物がかすんだりぼやけて見えたりするようになる。

はしか Measles

→麻疹

橋本病 Hashimoto's disease 【人名】1912年、外科医の橋本策（はかる）が世界で初めてこの病気に関する論文を発表したことにより、その病名が名前にちなんで付けられた。甲状腺機能低下症という疾患で、慢性甲状腺炎を引き起こす。

原因：甲状腺ホルモンが少なくなることによる。

症状：甲状腺の腫れ、くびの圧迫感など。

バージャー病 Buerger disease 【人名】1906年、アメリカの医師レオ・バージャー Leo Buerger (1879~1943) が詳しい報告を初めて行ったことから、その病名が名前にちなんで付けられた。なおバージャーのスペルは Buerger で、ビュルガーと発音されることもあるため、ビュルガー病とも呼ばれる。末梢動脈に閉塞性の内膜炎を起こし、末梢部に潰瘍や壊疽を引き起こす病気。

原因：動脈が、炎症により狭くなり、血液の流れが悪くなることによる。

症状：手足のしびれや痛み。

バセドウ病 Basedow disease 【人名】1840年、ドイツの内科医カール・アドルフ・フォン・バセドウ Karl Adolph von Basedow が甲状腺機能亢進症を起こす甲状腺疾患を発見したことにより、その病名が名前にちなんで付けられた。一方、英語圏ではアイルランドの外科医ロバート・ジェームス・グレイブス Robert James Graves がバセドウ病を最初(1835年)に報告したことより、グレイブス病 Graves' disease と呼ばれている。

原因：甲状腺ホルモンが過剰に産生されることによる。

症状：動悸、体重減少、手の震え、過剰な発汗など。精神的症状として、イライラ感、不眠、落ち着きのなさなど。

白血病 Leukemia 【症状】 [leukos (白い) と haima (血) に由来。-emia は血液の状態に関する表現にみられる接尾辞。] 1845年、ドイツの病理学者ルド

ルフ・ルートヴィヒ・カール・ウィルヒョー Rudolf Ludwig Karl Virchow は初めて観察した慢性骨髄性白血病患者の血液が白っぽくなっていたため、ラテン語の leukos (白い) と haima (血) から造語した leukemia (白血病) と名付けた。血液のがんとも言われる。

原因：遺伝子変異を起こした造血細胞が骨髄で無限に増殖して正常な造血を阻害することによる。

症状：リンパ節の腫れ、動悸、めまい、歯肉出血、鼻出血、発熱。

パトウ症候群 Patau syndrome 【人名】1657年、デンマークの解剖学者トーマス・バルトリン Thomas Bartholin によって見出されたが、1960年、ドイツ生まれのアメリカの遺伝学者クラウス・パトウ Klaus Patau によりこの疾患が遺伝子疾患であることが確認された。このため病気の原因を解明したパトウの名前に因んでパトウ症候群と呼ばれるようになった。

原因：通常13番目の染色体が1本多く3本あることにより、13トリソミーとも呼ばれる。症状：特徴的な顔面、眼の発育異常、精神遅滞など。

バルトネラ菌関連疾患 Bartonella-associated infections 【感染菌】バルトネラ菌を持っている猫に引っこされたり、その血を吸ったノミから刺されて感染(猫ひっかき病)、菌を持っているサシチョウバエという虫に刺されて感染(Oroya熱)、菌を持っているコロモジラミという虫に刺されて感染(塹壕熱)などがある。

原因：バルトネラ・ヘンゼレ *Bartonella henselae* の感染による。

症状：発熱、筋肉痛、頭痛。

ハンセン病 Hansen's disease 【人名】1873年、ノルウェーの医師アルマウエル・ハンセン Gerhard Henrik Armauer Hansen (1841~1921年)が病気の原因菌である癩菌 *Mycobacterium leprae* を発見したことにより、その病名にハンセ

ン **Hansen** の名前が付けられた。古くは、らい病と呼ばれていた。ハンセン病に対する偏見や差別が依然として存在しているので、正しい情報を提供することにより偏見や差別の解消を図ることが重要である。

原因：抗酸菌の一種である癩菌の皮膚のマクロファージ内寄生および末梢神経細胞内寄生による。

症状：痒みや痛みなどの自覚症状のない皮疹(白斑, 紅斑, 環状紅斑など)。

バンチ症候群 **Banti syndrome** 【人名】1899年, イタリアの医師グイド・バンチ **Guido Banti** (1852-1925) が初めて報告した疾患で, 病名にバンチ **Banti** の名前が付けられた。この病気は40歳前後の女性に多くみられ, 脾臓の静脈圧が高くなって脾臓が腫れる。当初バンチ病 **Banti disease** と呼ばれていたが, 疾患としての独立性に疑問が生まれた為, バンチ症候群 **Banti syndrome** と呼ぶようになった。最近では, 脾腫, 貧血, 門脈圧亢進を示し, 肝硬変などの病気をともなわないものを特発性門脈圧亢進症と呼ばれる。

原因：不明。

症状：脾腫, 貧血, 腹水, 肝硬変など。

ハンチントン病 **Huntington's disease** 【人名】1872年, アメリカの医師ジョージ・ハンチントン **George Huntington** によって報告されたことにより, その病名にハンチントン **Huntington** の名前が付けられた。かつてハンチントン舞踏病 **Huntington's chorea** と呼ばれていたが, 1980年代からは欧米でハンチントン病と呼ばれるようになった。日本でも2001年からハンチントン病の名称を用いている。

原因：大脳中心部にある線条体尾状核の神経細胞が変性, 脱落することによる。

症状：進行性の不随意運動 **involuntary movements** (舞踏運動 **chorea**: ギリシャ語で踊りの意味), 認知力低下, 情動障害など。

→アテトーゼ

【ひ】

ピーターパン症候群 Peter Pan Syndrome：1983年、米国の心理学者ダン・カイリー Dan Kiley の著書「ピーター・パン シンドローム（原題：*Peter Pan Syndrome*）」で定義された。大人という年齢に達しているが精神的に大人になれない男女を指す言葉で、病名ではない。

ヒト免疫不全ウイルス病 Human immunodeficiency virus：HIV 【感染菌】 HIV はウイルス名で、**Human Immunodeficiency Virus**（ヒト免疫不全ウイルス）の頭字語。HIVに感染した人が、エイズ診断のための指標疾患（23疾患）のいずれかを発症した状態のことをエイズ（後天性免疫不全症候群）と呼ぶ。1980年代に非加熱血液製剤により HIVに感染した薬害被害が起きた。製薬企業は危険を知らずながら販売を続け、国も対策を取らなかったことにより被害が拡大した。日本の薬事行政の在り方が社会問題になった健康被害の一つ³²⁾

原因：HIVの感染による。

症状：日和見感染症やがんなどの発症。

→エイズ

ヒトT細胞白血病ウイルス1型 Human T-cell leukemia virus type 1：HTLV-1 【感染菌】 HTLV-1は、**Human T-cell leukemia virus type 1**の各語の先頭の文字をつづり合わせた頭字語。成人T細胞性白血病や悪性リンパ腫の原因となるウイルスで、白血球の一種であるT細胞に感染する。一度感染すると生涯ウイルスを持ち続けることになり、このウイルスを無症状で持続的に保有している人をHTLV-1キャリアと呼ぶ。

原因：HTLV-1の感染による。

症状：関連疾患を発症するのは、キャリアのごく一部。約95%は関連疾患を発症しない。

ヒトパピローマウイルス感染症 Human papillomavirus infection 【感染菌】

[papilloma (乳首に似た腫瘍) は papilla (乳首) + oma (腫瘍) に由来。] ヒトパピローマウイルス *human papillomavirus* は、パピローマウイルス科に属するウイルスの一つで、ヒト乳頭腫ウイルスとも言われる。パピローマまたは乳頭腫と呼ばれるイボを形成することから名付けられた。

原因：ヒトパピローマウイルスの感染による。

症状：皮膚にイボができる。

肥満症 Obesity disease 【症状】 [obesity (肥満であること) はラテン語の *obedō* (隅々まで食べ尽くす/むさぼり食う) に由来。] 肥満をきっかけとして高血圧や糖尿病、脂質異常症などをもたらし、さらには動脈硬化を促進し、狭心症や心筋梗塞、脳梗塞などを生じる可能性が高まる。毎年3月4日に開催される世界肥満デー World Obesity day は、世界的な肥満の増加を背景として、人々に健康的な体重を達成・維持するための行動を喚起し、支援することを目的に制定された。世界中で、肥満の根本原因を認識して「自己管理能力が低い」というステイグマを解消し、世界の肥満に対する理解および予防・治療を向上させることに取り組んでいる。2023年のテーマは「**Changing Perspectives: Let's Talk About Obesity** 視点を変えよう：肥満について話そう」である。面白い取り組みとして、2023年にドイツで肥満の原因の一つとして運動不足が挙げられることから、選手の資格条件が体重100kg以上であるサッカーの新リーグ「オーバーウェイト・サッカーリーグ」が誕生している。

原因：食べ過ぎと運動不足。

症状：肥満であることで、動きにくい、息切れをしやすいなど。

肥満低換気症候群 Obesity hypoventilation syndrome: OHS 【症状】[obesity (肥満であること) + hypoventilation (低喚起) + syndrome (症候群)] ピックウィック症候群 Pickwickian syndrome という名称で呼ばれることもあったが、現在では、あまり使われていない。このピックウィック症候群は、英文学豪チャールズ・ディケンズ Charles Dickens の小説の太った登場人物にちなんでいる。

原因：高度の肥満によって呼吸機能が低下して、体内にある二酸化炭素の排出が不十分であることによる。

症状：睡眠中の呼吸異常と日中の眠気が出現する。睡眠時無呼吸症候群を合併することが多い。

百日咳 Pertussis or Whooping cough 【感染菌】[pertussis はラテン語 per (～を通して) + tussis (咳) に由来。] 1906年、二人のベルギーの細菌学者ジュール・ボルデ Jules Bordet とオクターブ・ジャング Octave Gengou は、百日咳の症状を起こした乳児の痰から、百日咳の起因菌を分離することにはじめて成功した。この菌は百日咳菌 *Bordetella pertussis* と命名され、その属名のなかに発見者の一人である Bordet の名が残されている。

原因：百日咳菌の感染による。

症状：カタル期、痙咳（けいがい）期、回復期と呼ばれる3つの経過がみられる。

ヒブ感染症 Hib 【感染菌】 *Haemophilus influenzae type b* (ヘモフィルス・インフルエンザ菌 b 型) の頭文字をとって Hib (ヒブ) と呼ばれている。また、ヘモフィルス・インフルエンザ菌 b 型感染症ともいう。

原因：Hib の感染による。

症状：脳を包む髄膜、のどの奥の喉頭蓋、肺などの炎症。

PTSD: Posttraumatic stress disorder

→心的外傷後ストレス症

【ふ】

ファロー四徴症 Tetralogy of Fallot 【人名】 [tetralogy: tetra (4, 数を意味する接頭辞) + logy (学問を意味する接尾辞)] 1888年, フランスの医師エティエンヌ・ルイ・アルチュール・ファロー Étienne Louis Arthur Fallot がその症例を報告したことにより, 病名にファロー Fallot の名前が付けられた。心室中隔欠損 (左右の心室を分ける仕切りの壁に大きな穴が開くこと), 大動脈騎乗 (正常な場合は左室につながっている大動脈が左右の心室にまたがっている状態), 漏斗部 (右心室の出口付近) および肺動脈の狭窄, 右室肥大 (右心室に負担がかかり右室の壁が厚くなる) の4つの特徴を持つ心疾患のこと。原因: 心臓の発生初期の過程で異常が生じ, 心臓の肺動脈と大動脈を分ける仕切りの壁が体の前方にずれることによる。症状: チアノーゼ (血液中の酸素が不足することをきっかけとし, くちびるや指先などの皮膚や粘膜が青紫色に変化した状態), 呼吸困難。

フィラリア症 Filariasis 【感染菌 (虫)】 [filaris (フィラリア, 糸状虫: 蚊に媒介され, 人間や動物に寄生する線虫) + iasis (病態を意味する)] バンクロフト・フィラリア症とも言い, 原因虫の糸状虫 *filaria bancrofti* を発見した英国の医師ジョセフ・バンクロフト Joseph Bancroft (1836~1894年) の名前が付けられている。

原因: 蚊によって媒介されたバンクロフト糸状虫, マレー糸状虫あるいはチモール糸状虫がヒトのリンパ管に寄生することによる。

症状: 寄生虫に感染しても症状がないことがほとんど。発症すると, 急性期には発熱, 悪寒, 筋肉痛。慢性期には下肢や陰囊などのむくみができる。

風しん Rubella 【感染菌】 [ラテン語 *rubellus* (赤みがかった) が由来。] 別名、三日はしかと呼ばれる。風しんに対する十分な免疫のない女性が妊娠 20 週頃までに風しんウイルス *rubella virus* に感染すると、胎内感染により胎児が先天性風疹症候群 *congenital rubella syndrome* と総称される障害を引き起こすことがある。例えば、妊娠 3 カ月までに風しんにかかると、胎児に白内障、先天性心疾患、難聴を伴った障害が出ることもある。また、妊娠 7～8 カ月に感染すると難聴の症状が出る。眼の胎芽は 3 カ月ころ、心臓の胎芽は 5 カ月ころ、聴覚器官の胎芽は 9 カ月ころに完成し、胎芽が完成すると風しんウイルスの影響を受けにくくなる。

原因：風しんウイルスの感染による。

症状：発熱、発しん、リンパ節腫脹。

フェニルケトン尿症 *Phenylketonuria* 【症状】 [*keto-* はケトン基の意味の接頭辞。] フェニルアラニンが代謝されて生成するフェニルケトンが尿中に排泄されることから、フェニルケトン尿症という用語が用いられている。ケトン尿症のこと。

原因：フェニルアラニンヒドロキシラーゼの反応（フェニルアラニンからチロシンが生じる反応）における酵素または補酵素の機能的欠損によるフェニルアラニンの蓄積とその副産物の生成による。

症状：発達遅延など。

腹膜炎 *Peritonitis* 【部位】 [ギリシャ語の *peritonos* (腹膜炎) + *itis* (炎症) に由来。腹膜の英語名 *peritoneum* はギリシャ語の *peritonaion* (上に伸ばされた部分) に由来。] *Peritonitis* (腹膜の炎症) は、1750 年頃、フランスの病理学者フランソワ・ボワジエ・ド・ラ・クロワ・ド・ソヴァージュ *François Boissier de Sauvages de Lacroix* (1706-1767) によりギリシャ語の *peritonos* から作られた造語。

原因：お腹にある臓器の炎症が腹膜に広がることによる。

症状：強い腹痛，吐き気，嘔吐など。

プラダー・ウィリー症候群 Prader-Willi syndrome 【人名】1956年にスイス人の内分泌科医アンドレア・プラダー Andrea Prader と神経科医ハインリッヒ・ウィリー Heinrich Willi が初めて報告したことにより，二人の名前 Prader と Willi が病名になった。15番染色体長腕の異常による視床下部の機能障害のため，満腹中枢をはじめ体温，呼吸中枢などの異常が惹起される。頻度は，1万人から1万5千人に1人とされ，人種差はないとされている。

原因：染色体異常による。

症状：症状は多岐にわたり，かつ年齢に応じて変化する。3歳を過ぎた頃に重度の緊張低下と摂食障害が起こり，その後，肥満症になる。また，言語発達や運動発達の遅れ，頑固な性格，強迫的性格などの特徴がある。

ブルガダ症候群 Brugada syndrome 【人名】1992年，スペイン人医師ペドロ・ブルガダ Pedro Brugada とジョセフ・ブルガダ Josep Brugada の兄弟が突発性の不整脈（心室細動）を生じる心疾患を初めて報告したことにより，兄弟の名前が病名になった。日本人をはじめとするアジア人に比較的多く認められ，成人男性に多く認められる。以前日本では「ぼっくり病」として知られていた³³⁾

原因：心室頻拍，心室細動等の不整脈など。

症状：突然生じる心停止，心室細動による突然死。

ブルセラ症 Brucellosis 【感染菌】[brucella (細菌の名前) + osis (病態を意味する)] スコットランドの医師デイビッド・ブルース David Bruce (1855-1931) が1887年にマルタ熱 (1853~1856年に起きたクリミア戦争中，地中海のマルタ島 Malta でイギリス兵の間で流行していた原因不明の熱病) の患者から

発見した細菌ブルセラ・メリテンシス *Brucella melitensis* にちなんで名付けられた病気で、1930年に現代ラテン語で命名された。この菌は発見者のブルース Bruce の名にちなんでブルセラ *Brucella* と呼ばれている。

原因：ブルセラ属 *Brucella* の細菌の感染による。

症状：発熱，発汗，頭痛，背部痛など。重症化すると脳炎，髄膜炎，心内膜炎，骨髄炎を起こす。

→骨髄炎

【へ】

ペスト Plague (ドイツ語：Pest) 【感染菌】[ラテン語 *plaga* (大打撃)が語源で、大厄災，伝染病の意味。] 感染者の皮膚が内出血して紫黒色になるため，黒死病 *black death* (ドイツ語：schwarzer tod) とも呼ばれる。ペストの形態は，腺ペスト，肺ペスト，敗血症ペストの3つに分類される。

ペスト菌 *Yersinia pestis* は1894年にスイス・フランスの医師で，パスツール研究所の細菌学者でもあったアレクサンドル・イエールサン *Alexandre Yersin* が香港 (旧イギリス領) で発見した。またこれとは独立して，同時期に香港に派遣された日本人調査団の医学者 青山胤通が解剖したペスト患者から，北里柴三郎がペスト菌を発見した。しかし，病気(ペスト)とペスト菌を最初に結び付けて考えたのはイエールサンであったことから，1967年に *Pasteurella pestis* と付けられていたペスト菌の学名はイエールサンにちなんだ *Yersinia pestis* に改められた³⁴⁾

原因：ペスト菌の感染による。

症状：(腺ペスト) 高熱，悪寒，鼠径部の腫れなど。

(肺ペスト) 発熱，悪寒，咳，痰，胸痛など。

(敗血症ペスト) 発熱，悪寒，腹痛，出血傾向 (何らかの原因で血が止まらない，あるいは出血しやすくなる) など。死に至ることもある。

ベーチェット病 Behçet's disease 【人名】1937年、トルコの皮膚科医フルス・ベーチェット Hulusi Behçet が初めて報告したことにより、その病名にベーチェット Behçet (=Behçet) の名前が付けられた。ベーチェット病は北緯30度～45度の中近東から地中海沿岸、中央アジア、そして日本に至る東アジア地区に多発するため、シルクロード病とも呼ばれる。日本では厚生労働省によって特定疾患に指定されており、2020年3月末時点で患者数は約1.5万人になる。

原因：不明。

症状：体のさまざまな部位に繰り返し炎症発作が引き起こされる。眼症状、口腔内の再発性アフタ性潰瘍（口内炎）、さまざまな皮膚症状、外陰部潰瘍。

ヘバーデン結節 Heberden's node 【人名】[node (結び, こぶ) はラテン語の nodus (結び目) に由来。] イギリスの医師ウィリアム・ヘバーデン William Heberden (1710-1801) が関節部の反復性外傷によって関節の軟骨に骨棘が形成されることで引き起こされる変形性関節症を初めて報告したことにより、その病名にヘバーデン Heberden の名前が付けられた。

原因：不明。

症状：関節の変形、ブシャール結節の痛み。

ヘルパンギーナ Herpangina 【症状】[古典ギリシャ語の *hērpēs* (ヘルペス, 帯状疱疹) + ラテン語の *angina* (扁桃炎) に由来。] 発症の原因となるウイルスは、手足口病と同じで、エンテロウイルス *enterovirus* のコクサッキーウイルス *coxsackie virus* やエコーウイルス *echovirus* (*enteric cytopathogenic human orphan virus* の略) など。これらのエンテロウイルスは接触感染と飛沫感染によって感染が広がるため、子どもたちが密接して過ごす保育園、幼稚園、学校などで流行しやすい。夏季に流行する「夏かぜ」の代表的疾患の一つ。

ヘルパンギーナでは口内炎ができ突然高熱がでる一方、手足口病は水疱性発疹がみられるものの熱はあまり高くない。

原因：エンテロウイルスの感染による。

症状：発熱，口内炎，喉の痛み。

→手足口病

片頭痛 *Migraine* 【症状】 [2世紀にギリシャの医学者クラウディウス・ガレヌス *Claudius Galenus* が *hemicrania* と名付けたものが，*hemi* (半分) が *mi* と縮まり，*crania* (頭蓋骨) が *graine* となまり，*migraine* になった。]

原因：何らかのきっかけで，脳の血管が急激に拡張することによる。

症状：軽度から激しい頭痛，発作的で脈打つような痛み，嘔吐。

【ほ】

ポリオ *Acute poliomyelitis* (急性灰白髄炎) 【感染菌】 [*poliomyelitis* はギリシャ語の *polios* (青白い) + *myelos* (骨髄，脳の内側の部分) + *itis* (炎症) に由来。] *poliomyelitis* はドイツの医師アドルフ・クスマウル *Adolph Kussmaul* (1822-1902) により造語された。脊髄の灰色物質が炎症を起こし，麻痺を引き起こすことにより急性灰白髄炎と呼ばれる。子ども（特に5歳以下）がかかることが多く，脊髄性小児麻痺とも呼ばれる。

原因：ポリオウイルス *poliovirus* の感染による。

症状：麻痺など。

【ま】

マタニティ・ブルー(ズ) *Maternity blues* 【症状】 [*maternity* (母であること：ラテン語の *mater* (母) が語源) + *blue* (青い，憂うつな)] 1973年，イギリスの精神科医ブライス・ピット *Brice Pitt* により名付けられた。妊娠期間中や出産直後に見られる軽度の抑うつ症状や涙もろさを主な症状とする一過性

の現象。

原因：妊娠・出産でホルモンのバランスが崩れたり、生活が一変することで精神的なストレスがたまることなど。

症状：いらいらする、ちょっとしたことが気になる、すぐに泣く、寂しい、疲れやすい、無気力、不眠、食欲不振など³⁵⁾

麻疹 Measles 【感染菌】[masel の複数形 maseles (しみ, 突起増殖物, 発疹) が由来。] 一般的に、はしかと呼ばれ、麻疹ウイルス *measles virus* に感染することによって引き起こされる感染症。麻疹ウイルスは空気感染、飛沫感染、接触感染などさまざまな感染経路を持ち、非常に感染力が強い。特に空気感染は一般的な手洗いやマスク着用などの感染対策では予防することができない。感染者と同じ空間にいただけで感染するリスクがあるため、公共施設や学校などでの集団感染が起こるケースも珍しくない。

原因：麻疹ウイルスの感染による。

症状：38℃前後の発熱が2～4日間ほど続き、倦怠感、喉の痛み、鼻水、咳、充血などの症状が現れる。その後いったん熱は下がるものの、半日程度で39℃前後の高熱が現れ、おでこ、耳の後ろ、首などに赤い発疹がでる。

マールブルグ病 Marburg virus disease 【地名】1967年、最初に症例が確認された西ドイツ（現ドイツ）のマールブルグ Marburg の地名による。ミドリザル出血熱 Vervet monkey hemorrhagic fever とも呼ばれる。

原因：マールブルグウイルス *Marburg virus* の感染による。

症状：高熱、頭痛、倦怠感など。

【む】

無菌性髄膜炎 Aseptic meningitis or Bacterial meningitis 【症状】[aseptic は a (な

い) + septic (腐敗の) に由来。meningitis (髄膜炎) は meningo (髄膜) + itis (炎症) に由来。] 一般的な細菌検査では髄液から細菌を検出できないが、無菌性髄膜炎の多くはウイルス性であることが多い。細菌性髄膜炎と同様の症状を呈する。1990 年前後、MMR ワクチン (はしか、おたふくかぜ、風疹) の接種で多くの子どもが発症した。

原因：細菌感染による。

症状：発熱，頭痛・嘔吐，うなじが硬くなって首が前に曲げにくいなど。

→髄膜炎

【め】

メニエール病 Ménière disease 【人名】1800 年代にフランスの医師プロスパー・メニエール Prosper Ménière (1799~1862) によって発見されたことにより、その病名にメニエール Ménière の名前が付けられた。内耳にある内リンパ液は毎日新しく作られており、作られるのとほぼ同量を体内に再吸収することによって内容量が一定に維持される。ところがこのバランスが崩れると内リンパ液が過剰にたまり、内耳がむくむようになる。この内耳のむくみ (内リンパ水腫) をメニエール病と呼ぶ。

原因：内耳のむくみの原因は不明。

症状：耳鳴り，めまい，難聴など。

免疫疾患 Immunologic disease or Immune disorders

→自己免疫疾患

【も】

モートン病 Morton disease 【人名】1876 年，アメリカの一般外科医トーマス・G・モートン Thomas G. Morton によって発見，報告されたことから，その病名にモートン Morton の名前が付けられた。モートン病は足趾 (そくし=足

の指)へと向かう神経が足趾の付け根の部位で圧迫を受けることで生じる神経障害。

原因：ヒールが高い靴を履くことや、外反母趾など骨の形態異常、ガングリオンなどの腫瘍の神経圧迫など。

症状：足趾や足の甲への痛み、しびれなど。

燃え尽き症候群 Burnout syndrome [burnout：燃え尽きるの意味。] 1972年、ドラッグ使用者を意味するスラングとして登場。Burnout syndrome は、アメリカの精神心理学者ハーバート J. フロイデンバーガー Herbert J. Freudenberger が 1974 年代に初めて用いた造語で病名ではない³⁶⁾

原因：対人関係などに由来するストレス刺激によって生じる情緒的消耗感による。

症状：これまでモチベーションを高く保っていた人が、突然やる気を失う。

もやもや病 Moyamoya disease 【症状】もやもや病は、日本人に多発する進行性脳血管閉塞症。脳血管造影の画像において、異常血管網が煙草の煙のようにモヤモヤして見えることからこの病名となった。もやもや病で細くなった血管はウィリス動脈輪という血管の環状交差点（ロータリーのようなもの）をつくるためウィリス動脈輪閉塞症とも呼ばれる³⁷⁾

原因：不明。

症状：脳の内頸動脈が徐々に狭くなり、その結果閉塞する。

【 や 】

野球肩 Baseball Shoulder 【その他】投球動作に関連して発症する肩障害の総称。

原因：肩関節を構成する腱や筋肉などが、ものを投げる動作によって障害を受けること。肩を使いすぎることによって発症するケースが多い。

症状：肩の痛みが生じ投球動作がうまくできなくなる。

【よ】

腰椎圧迫骨折 Lumbar compression fracture 【部位】 [lumbar (腰部) はドイツ語の lumbal (腰椎, 腰の) に由来。compression (圧縮する) は com (一緒) + premere (押す) に由来。fracture (骨折) はラテン語の L. frangere (粉碎する, 割る) が語源。] 骨粗鬆症の高齢者で起こる骨折。

原因：脊椎に対して、外力が加わることを原因として発症。多くが骨粗鬆症を基盤として発症する。

症状：痛み。

【ら】

らい病 Leprosy

→ハンセン病

ライム病 Lyme disease or Lyme borreliosis 【地名】 [borreliosis：原因菌の borrelia に由来。] 1976年、米国コネチカット州のライム Lyme で発生したことで知られるようになり、この地名が病名に使われた。ライム病は、スピロヘータの一種であるボレリア *Borrelia* 属細菌によって引き起こされるダニ媒介性感染症。米国では、主に *Borrelia burgdorferi*, *B. mayonii* によって引き起こされる。欧州およびアジアでは、主に *B. afzelii*, *B. garinii*, *B. burgdorferi* によって引き起こされる。

原因：ボレリア菌の感染による。

症状：遊走性紅斑と呼ばれる赤み。その後、皮膚局所で増殖したボレリア菌がリンパや血液の流れに乗り全身に広がる。神経であれば脊髄神経炎、髄膜炎、顔面神経麻痺。目では角膜炎。心臓では不整脈。

ラッサ熱 Lassa fever 【地名】 1969年、ナイジェリア北東部ラッサ村 Lassa で最初の患者が発生したことにより、この地名が病名に使われた。

原因：ラッサウイルス *Lassa virus* の感染による。
 症状：急激な発熱，倦怠感，関節痛，咽頭痛など。

【リ】

リケッチア感染症 *Rickettsia infection* 【人名】1906年，アメリカの病理学者ハワード・テイラー・リケッツ Howard Taylor Ricketts は感染者の血液中およびベクターとして機能するダニからこの病気の病因物質のリケッチア・リケッチイ *Rickettsia rickettsii* と感染経路を発見したことで，その病名にリケッツ Ricketts の名前が付けられた。

原因：主にネズミノミが媒介する発疹熱リケッチア *Rickettsia typhi* の感染による。
 症状：発熱，重度の頭痛，特徴的な発疹，倦怠感。

リー症候群 Leigh syndrome 【人名】1951年，イギリスの神経学者デニス・アーチボルド・リー Denis Archibald Leigh が亜急性壊死性脳脊髄症 *subacute necrotizing encephalomyelopathy* として最初に報告したことにより，病名に発見者の名前が付けられた。小児期に発症するミトコンドリア病の代表的な病型の一つ。

原因：ミトコンドリアの働きが低下することによる。
 症状：精神運動発達遅滞，けいれん，筋緊張，筋力の低下。

リフトバレー熱 Rift Valley fever 【地名】主に東アフリカの大地溝帯グレート・リフトバレー Great Rift Valley に分布し古くから知られている病気で，地域名が病名に使われた。

原因：ブニヤウイルス科フレボウイルス属に属するリフトバレー熱ウイルス *Rift Valley fever virus* の感染による。
 症状：インフルエンザ様症状を示し，多くの患者は軽症。

緑内障 Glaucoma 【症状】 [古代ギリシャ語の *glaukos* (青緑色, 灰色がかった緑) に由来。] ヨーロッパ・日本ともに, この病気の表現に「あお」を使用している。なお, 中国語では青光眼と言う。昔のヨーロッパの教科書に緑内障の定義として, 目が濁る病気でその濁りは緑色なので緑の字が当てられたという説もある。一方, 古代ギリシャのヒポクラテスが「目が地中海の海の色のように青くなり, やがて失明状態になる」と記述したことに由来しており, 瞳の色が青い人の瞳孔が広がって, 濃い青に見える可能性と瞳孔の色が薄い人も同様に瞳孔が広がり黒い(青い)目に近くなり, 目が青く見える可能性の両方が考えられる。日本人の場合は緑内障になっても瞳が青く見えることはほとんどない。なお, 緑内障という言葉は緑と内障とから成り立っている。そして, その影の色によって「青そこひ」と呼んでいた。また, 内障を「そこひ」と読む例が15世紀ごろからあり, 「青そこひ」が緑内障である。「そこひ」は漢字で書くと底翳。底は眼底を表し, 翳はかげと読み, 暗くなることでかげるの意味。底眼に障害があって見えなくなる(暗くなる)ことを意味している。

原因: 視神経の異常。

症状: 視野が狭くなり部分的に見えなくなる。眼圧の上昇。

流行性角結膜炎 Epidemic keratoconjunctivitis 【部位】 [epidemic (流行性の, 伝染性の) はギリシャ語の *epidemia* (特にペストなどの流行病) に由来し, ある場所に滞在すること, 流行病の蔓延という意味。keratoconjunctivitis (角結膜炎) は *kerato* (角膜) + *conjunctivitis* (結膜炎): *conjunctiv* はラテン語の *conjunctivus* (接続するために役立つ) に由来。] 昔から, はやり目と呼ばれる。結膜が炎症したときに限っては, 結膜炎 *Pink eye* と言う。

原因: アデノウイルス *adenovirus* の感染による角膜あるいは結膜の炎症。

症状: 強い充血, 大量の目やに。

流行性耳下腺炎 Mumps

→おたふく風邪

淋菌感染症 Gonococcal infection 【感染菌】 [gonococcal (淋菌性の) : gonorrhoea (淋病) は gono (精液) + rhein (流れる) に由来し、種がどくどく流れるという意味で、淋病の外尿道口から膿みがたくさん出ることを表す。] 通称は淋病で、医学的には淋菌感染症と呼ばれる。原因菌の淋菌 *Neisseria gonorrhoeae* は、1879年にドイツの医師アルベルト・ルートヴィヒ・ジークスマント・ナイサー Albert Ludwig Sigismund Neisser が発見したことにより名付けられた。

原因：淋菌の感染による。

症状：男性では淋菌性尿道炎を、女性では子宮頸管炎を引き起こす。

リンパ腫 Lymphoma

→悪性リンパ腫

【 る 】

類鼻疽 (るいびそ) Melioidosis 【感染菌】 [melioidosis はギリシャ語の melis = a distemper of asses (ロバのジステンパー：鼻疽を指す) + eidos = resemblance (～に似た) に由来。] 日本では類鼻疽と呼ばれているが、近年では一般的にメリオイドーシス melioidosis と呼称されることが多い。

原因：類鼻疽菌 *Burkholderia pseudomallei* の感染による。

症状：吸引感染では肺炎、敗血症など。創傷感染では感染部位の化膿性炎。

【 れ 】

レイノー病 Raynaud's disease 【人名】 1862年、フランスの医師モーリス・レイノー Maurice Raynaud が初めて報告したことにより、病名に発見者の名前

が付けられた。基礎疾患が不明な場合をレイノー病と呼ぶ。40歳以前の若年女子に多発する傾向にある。

原因：寒冷刺激や精神的ストレスに対する反応として手や足の一部に生じる血管の攣縮（けいれんを起こして極めて細くなる）による。

症状：冷感、皮膚色の変化。

レジオネラ症 Legionnaires' disease or Legionellosis 【感染菌】1976年、米国ペンシルバニア州で開催した在郷軍人 legionnaire の200年祭で、参加者を中心に集団肺炎の発生が起こって発見されたことにより、レジオネラ legionella が病名に使われた。別名、在郷軍人病 legionellosis と呼ばれる。] レジオネラ症には複数の病型があり、中でも代表的なのは、自然軽快が期待できるポンティアック熱と重症の肺炎が生じるレジオネラ肺炎がある。

原因：レジオネラ・ニューモフィラ *Legionella pneumophila* を代表とするレジオネラ属菌による細菌感染。エアロゾル感染では、レジオネラ属菌の含まれた細かい霧やしぶき（循環式浴槽、ジャグジー、噴水、加湿器など）を口や鼻から吸い込むことによる感染。経口感染では、温泉や川などでレジオネラ属菌の含まれた水を飲み込んでしまうことにより感染。土壌からの感染では、レジオネラ属菌の含まれた腐葉土などの粉塵を吸い込むことにより感染。

症状：（ポンティアック熱）突然の発熱、寒気、筋肉痛など。特に治療をしなくても2～5日程度で自然に軽快する。（レジオネラ肺炎）発熱、頭痛、倦怠感など。病気の進行とともに、38℃を超える高熱、咳、胸の痛み、呼吸困難など。無治療の場合には発症から1週間程度で悪化し、重症の肺炎に至り命に関わることもある。

レビー小体型認知症 Dementia with Lewy bodies 【人名】[dementia はラテン語の demens（正気からはずれる）が語源で、de（否定）+ment（考える）に由

来。] ドイツ生まれでアメリカの神経学者フレデリック・ヘンリー・レビー Frederic Henry Lewey (出生時名 独: Friedrich Jacob Heinrich Lewy) が、ドイツのミュンヘン大学医学部精神医学教室のアルツハイマー Alzheimer のもとで 1912 年にパーキンソン病の脳幹の神経細胞の内部に見られるレビー小体 Leby body (異常な円形状の構造物) を発見したことによる。日本ではアルツハイマー型認知症や脳血管性認知症と並び三大認知症と呼ばれている。原因: 脳の大脳皮質に異常なタンパクの蓄積によって生じるレビー小体による。

症状: 日常生活に支障をきたすような認知機能の低下, 記憶障害。

→アルツハイマー症, 認知症

レプトスピラ症 Leptospirosis (ワイル病 Weil's disease) 【感染菌】ワイル病 Weil's disease の名は, 1886 年にドイツの医学者アドルフ・ワイル Adolf Weil により初めて報告されたことによる。日本ではレプトスピラ症は収穫期の田に出現する野鼠に人が接触することで感染したため, 古来より秋疫 (あきやみ), 用水病, 七日熱の名前で呼ばれていた。

原因: レプトスピラ菌 *Leptospira interrogans* の感染による。

症状: 感冒様症状, 黄疸, 出血, 腎障害。

【ろ】

LOH 症候群 Late-onset hypogonadism (ローショウコウゲン) 【その他】

[hypogonadism(性腺機能低下症)は hypo(下に) + gonad(性腺, 生殖腺) + ism(状態, 動作, 様子, 理論を抽象名詞化するギリシャ語の接尾辞) に由来。]

LOH は Late-onset hypogonadism の頭字語。なお, 男性更年期障害, パダム PADAM (partial androgen deficiency of the aging male の略) あるいはアダム ADAM (androgen decline in the aging male の略) と呼ばれた時期もあった。

原因: 男性ホルモンのテストステロンの分泌が急激に減少することによる。

症状：40歳代から60歳代の男性に発症し，うつ症状，不眠，性欲減退，筋力低下など。

ロタウイルス感染症 Rotavirus infection 【感染菌】 [rotavirus (ロタウイルス) : rota はラテン語の rota (車輪) に由来+virus (毒液)] ロタウイルスは電子顕微鏡で見ると車輪 (rota : ロタ) のような形をしていることから，ロタウイルス *rotavirus* と命名された。

原因：感染者の便に含まれるロタウイルスが口に入ることで感染 (糞口感染)。

症状：激しい下痢，嘔吐，発熱，腹痛など。

追記：【ぬ】【み】【ゆ】【わ】【ん】について，適切な病名を見出せなかった。

お わ り に

病気の命名の仕方には一定のルールはみられないようであるが，その特徴として感染症には，腸炎ビブリオ感染症 (原因菌：腸炎ビブリオ菌) のように，病原体 (細菌，ウイルス，真菌，寄生虫) の名称が病名の由来になったものが多い。また，症候群には耳鳴り・難聴・めまいを伴う内耳の疾患として有名なメニエール Ménière 症候群のように，発見者の人名 (エポニム eponym) が付けられたものが多い³⁸⁾。

しかし，ピーターパン症候群や燃え尽き症候群などのように，正式な医学の病名ではないがその時代の社会的病理現象としてとらえ名づけられたものもある。その一方，病名から偏見や差別をもたれる病名も存在する。結核は古くは労咳と言われ恐れられ差別の対象であったが，結核菌が原因とわかってからは「不治の病」から「治せる病気」に変わっていった。このように病名が見直される背景には医学の進歩がある。また，2002年に精神分裂病が統合失調症に，そして2004年に痴呆症が認知症に改名された背景には偏見をなくす闘いが原

動力となっていた。

病名は処方箋に記載されていないため薬剤師が直接携わることがないことから、病気の知識が乏しいと他の医療職から思われている。しかし、臨床で患者に向き合うためには、病気の知識も薬剤師には必要である。薬学教育は2006（平成18）年度から6年間になり、講義、実習等、また実務実習（病院、薬局での各3ヵ月間）により病気に関する講義も多くなっている。それらの講義では、病気の原因、症状、治療薬、治療法、病態生理、そして医薬品（薬）の構造活性相関、薬が効くメカニズム（薬理）、薬の体内動態、薬の代謝による薬の効果や副作用などを学習している。主として薬学は人の健康に化学を通して貢献する学問の一面があり、患者の命を意識して勉学を行っているとは言いがたい。一方、医学は人の健康に生命を通して貢献する学問であることから、患者と向き合い命を意識して勉学を行っている。このような背景からも薬学生は医学生に比べて病気に対しての実感がないのが実情であると考えられる。また、薬剤師には、患者を救いたいという強い想いを表に出すことが必要である。病気の名称の由来を知ることは、これらを解決する試みにつながるのではないかと思われる。したがって、本論文では患者のつらさに共鳴することや、病気の実感が得られるきっかけとなるよう病名・症候群の英名についての語源解説に加え、名称の由来と共にできるだけ病気の原因と症状も書き加えた。

参考文献・資料

- 1) ICD-11-Mortality and Morbidity Statistics, ICD-10 準拠国際疾病分類（厚生労働省ヘリント）国際疾病分類：https://icd.who.int/en
- 2) World Health Organization best practices for the naming of new human infectious diseases. (May 15, 2015). https://www.who.int/publications/i/item/WHO-HSE-FOS-15.1
- 3) WHO recommends new name for monkeypox. https://news.un.org/en/story/2022/11/1131082
- 4) Coronaviridae study group of the International Committee on Taxonomy of Viruses, The species Severe acute respiratory syndrome-related coronavirus: classifying 2019-nCoV and naming it SARS-CoV-2, *Nature Microbiol.*, **5**, 536-544 (2020). https://www.nature.com/

- articles/s41564-020-0695-z
- 5) 加藤茂孝, HIV/AIDS—チンパンジーから入った 20 世紀の病, モダンメディア, **60**, 277-293 (2014).
 - 6) 日本精神神経学会, 精神科病名検討連絡会, DSM-5 病名・用語翻訳ガイドライン (初版), 精神神経学雑誌, **116**, 429-457 (2014).
 - 7) 「糖尿病」の名称変更へ～患者の 9 割が不快感—糖尿病協会～: <https://medical.jiji.com/topics/2822>
 - 8) ステッドマン医学大辞典改訂版 4 版, ステッドマン医学大辞典編集委員会 編集, メジカルビュー社 (1997).
 - 9) 図解 看護・医学事典第 8 版, 井部俊子, 箕輪良行 監修, 医学書院 (2017).
 - 10) 感染症の辞典, 国立感染症研究所学友会 編集, 朝倉書店 (2005).
 - 11) 伝染病・感染症医療史辞典, 日外アソシエーツ (2021).
 - 12) 英語語源辞典, 寺沢芳雄 編集主幹, 研究社 (1997).
 - 13) ロングマン現代英英辞典 第 6 版, 桐原書店 (2014).
 - 14) オックスフォード現代英英辞典 第 10 版, オックスフォード大学出版局 編 (2020).
 - 15) 新英和中辞典 第 6 版, 竹林 滋, 吉川道夫, 小川繁司 編, 研究社 (2001).
 - 16) 菅原美佳, 医学英語の語彙力の強化を目指す効果的な教育方法についての考察, 東北医科薬科大学教養教育関係論集, **31**, 1-14 (2017). <https://ci.nii.ac.jp/naid/120006480032>
 - 17) 田代邦雄, 不随意運動: 診断と治療の進歩, 「II. 主な不随意運動の病態と治療 6. アトローゼ」, 日本内科学会雑誌, **89**, 655-658 (2000).
 - 18) H. Ejiri et al., Characterization of a novel thogotovirus isolated from *Amblyomma Testudinarium* Ticks in Ehime, Japan: A significant phylogenetic relationship to *Bourbon Virus*. Virus Res., **249**, 57-65 (2018).
 - 19) 西山茂夫, 皮膚科の病名由来ア・ラ・カルト 2, 協和企画通信 (1994).
 - 20) 川田志明, 耳寄りな心臓の話 (第 25 話)「狭心症を命名したヘバーデン親子」, 日本心臓財団刊行物「はあと文庫」 (2014 年 03 月 30 日): <https://www.jhf.or.jp/publish/bunko/25.html>
 - 21) M. Okuni, Orthostatic dysregulation in childhood with special reference to the standing electrocardiogram. Jpn Circ. J., **27**, 200-204 (1963). doi: 10.1253/jcj.27.200
 - 22) 土井脩, クロロキン網膜症事件, 医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス, **50**, 418-419 (2019).
 - 23) 西條政幸, 森川茂, 倉根一郎, クリミア・コンゴ出血熱, ウイルス, **54**, 223-228 (2004).
 - 24) 岡部信彦, 近年問題となった新興感染症と現状, 日本内科学会雑誌, **105**, 2120-2125 (2016).
 - 25) 栢森良二, サリドマイド胎芽病者の 50 年, Jpn J. Rehabil. Med., **50**, 957-961 (2013).
 - 26) 永田栄一郎, 片頭痛の病態に関する最新の知見, 臨床神経学, **60**, 20-26 (2020).

- 27) B. L. Mason, E. S. Brown, P. E. Croarkin, Historical underpinnings of bipolar disorder diagnostic criteria, *Behav. Sci.*, **6**, 14 (2016). doi : org/10.3390/bs6030014
- 28) 一般社団法人日本感染症学会, 感染症クイック・リファレンス : <https://www.kansensho.or.jp/ref/>
- 29) 堀田進, デング熱とデングウイルス-熱帯医学への挑戦-, *日熱医学誌*, **28**, 369-381 (2000).
- 30) 羽賀達也, 三輪一真, 日本における病名「糖尿病」の由来について, 糖尿病/糖尿病編集委員会 編, **49**, 633-635 (2006).
- 31) 加藤茂孝, 「梅毒」-コロンブスの土産, ペニシリンの恩恵, *モダンメディア*, **62**, 173 (2016).
- 32) 出河雅彦, 血液製剤と HIV 感染, *日本エイズ学会誌*, **15**, 91-95 (2013).
- 33) 鎌倉史郎, 人名が冠された不整脈疾患, *心臓*, **49**, 1101 (2017).
- 34) T. Butler, Plague history : Yersin's discovery of the causative bacterium in 1894 enabled, in the subsequent century, scientific progress in understanding the disease and the development of treatments and vaccines, *Clin. Microbiol. Infection*, **20**, 202-209 (2014).
- 35) B. Pitt, Maternity blues, *Br. J. Psychiatry*, **122**, 431-433 (1973).
- 36) 久保真人, バーンアウト (燃え尽き症候群) ヒューマンサービス職のストレス, *日本労働研究雑誌*, **558**, 54-64 (2007).
- 37) S. Kuroda, K. Houkin, Moyamoya disease : current concepts and future perspectives, *Lancet Neurol.*, **7**, 1056-1066 (2008).
- 38) A. Woywodt, E. Matteson, Should eponyms be abandoned? Yes, *Bri. Med. J.*, **335**, 424 (2007). doi : 10.1136/bmj.39308.342639.AD